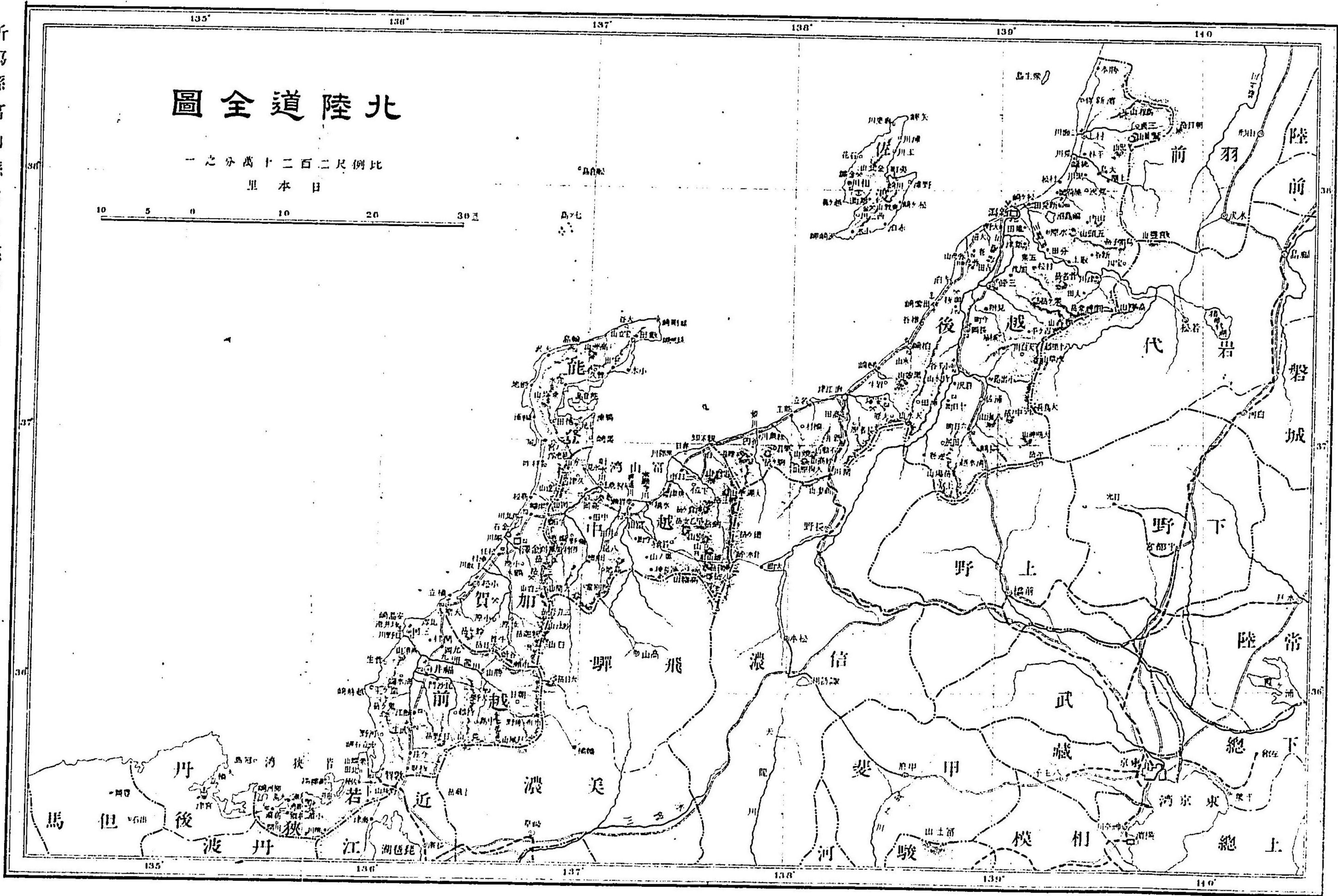


新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣

# 北陸道全圖

比例尺二尺二百一十分之一  
日本里



富山、新潟ノ四縣ヲ以テ之ヲ分轄ス

(參照)

若狹 三郡

三方、遠敷、大飯、

越前(舊名古志ノ内)八郡

足羽、吉田、坂井、大野、南條、今立、丹生、敦賀、

加賀(全上)四郡

江沼、能登、石川、河北、

能登(全上)四郡

羽咋、鹿島、鳳至、珠洲、

越中(全上)五郡

上新川、婦負、下新川、射水、福波、

越後(全上)十五郡

北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原、東蒲原、三島、古志、北魚沼、南魚沼、中魚沼、刈羽、東頸城、中頸城、西頸城、岩船、

佐波 三郡

北陸道、成立

雜太、加賀、羽茂、

越前

(一) 本道ハ本州中部ノ北斜面ナル故、地勢ハ恰モ東海道ト相反シ、南ニ高クシテ北ニ低シ、而シテ其ノ他道ニ接スル處悉ク山脈ニ圍繞セラレ、即東南部ニハ出羽山脈三國山脈アリ、中央部ハ富士帶及飛驒山脈ノ北部之ヲ横斷シ、西南部ハ中國山系ノ東端ヲ負ヒ、能登ノ北部ニ能登山脈アリテ、海ヲ超エテ佐渡ト隱岐トニ其頂點ヲ露セリ、本道ノ沿岸ハ、若狹ヲ除クノ外ハ概テ平夷ナリ。

山嶽

(二) 本道ノ境界ハ山脈ニ富メリ以テ、高峻ナルモノ亦尠ナカラス。越後ニハ朝日岳(六三三九尺)、地藏岳、飯豐山(六二〇四尺)、烏帽子岳、御神樂岳(三九六〇尺)、淺草山(五三四六尺)、入岩嶽(六六二六尺)、苗場山(六九六三三尺)、妙高山(八一〇〇尺)、燒山等アリ。上野ヨリ越後ニ到ル通路ニハ、清水越、及三國峠(四二五〇尺)、澁峠アリ。越中ノ境ニ、飛驒山脈ニ屬スル大連華山(九八七一尺)アリ、此脈北走シテ日本海ニ盡ク、其盡頭ヲ親不知ノ險トス。大連華ノ南、信越ノ境ニ、鏡ヶ嶽アリ、黒部川ヲ隔テ、立山ニ對ス、立山(九三三七二尺)ハ常時烟ヲ噴ク、能登ニハ其北部ニ能登山脈ノ高洲山、寶立山相連リ、珠洲崎ヨリ海ニ沒ス、越中加賀ノ境ニハ、俱利伽羅峠、醫王嶽、三方嶽等アリテ、其脈延イテ加賀ノ

河流

東南隅ナル白山(八九五〇尺)ニ至ル、白山ノ西ニ釋迦嶽、及越前ノ境ヲナス、大日嶽アリ。越前、若狹ニハ高峻ナルモノナシ、唯、越前ノ南境ナル荒島山(四二五〇尺)、西境ナル野坂山(三〇三六〇)、及若狹ノ西境ナル榮螺山(二二一一尺)ノミ稍著ナル。

(四) 本道河流ノ大ナルモノハ多ク、東山道ニ登源シ、東南境ノ諸山脈ヲ横斷スルヲ以テ、處々ニ激湍ヲナシ、流程ノ長キニ比シテ舟楫ノ利少シ、其小ナルモノハ、多ク東山道トノ境界ヨリ發スルヲ以テ、流勢皆急ニシテ水量時氣ニヨリテ大差アリ、故ニ往々河水ノ氾濫ヲ來ス。

越後ノ信濃川ハ源ヲ甲信ノ境金華山ニ登シ、上流ヲ千隈川ト云フ、信濃ノ東部ヲ西北流シ、犀川ヲ合セ東西ニ流レテ越後ニ入り、新潟ヲ過キテ日本海ニ注ク。流程百餘里、本州第一ノ長流タリ、舟楫ノ便ヲ有スルモノ六十里、瀛船ヲ通ジ得ルコト十七里、河口ヨリ長岡ニ達スベシ、河口濶廿八町、本川ノ上流ハ富士帶、飛驒兩山脈ノ縱谷ヲ流ル、ヲ以テ、其支流極メテ多ク、越後ニ入りテ、魚沼川、五十嵐川ヲ合ス、故ニ又八千八河ノ稱アリ。

阿賀川ハ其上流ヲ日橋川ト云ヒ、源ヲ岩代ノ猪苗代湖ニ發シ、西流シテ鶴沼、只見

ノ兩川ヲ合セ、出羽山脈ノ險隘ヲ横斷シテ越後ニ入り、信濃河口ニ近ヅキテ日本海ニ注ク。長サ五十七里、瀧八町、水勢最モ急ニシテ舟楫ヲ通ズルコト殆二十里ニ達ス。越中ノ西方ニ射水川アリ、長サ五十八里、舟楫ヲ通ズルコト十里、飛騨ノ白川ノ下流ニシテ、源ヲ飛騨美濃ノ境ニ發シ、北流シテ越中ニ入り、高岡ノ東ヲ經、伏木港ヨリ海ニ入ル。神通川ハ飛騨宮川、高原川ノ下流ニシテ、富山市ヲ貫流シ、流程五十二里ニシテ海ニ入ル。黒部川ハ越中ノ東南境ニ發シ、北流シテ二脈ニ分レ、西ニ轉ジテ海ニ入ル、流程二十里、瀧八町餘。

加賀ノ手取川ハ源ヲ白山ニ發シテ北向シ、更ニ西流シテ海ニ入ル、長サ二十里、瀧五町。越前ノ九頭龍川ハ、源ヲ國ノ東境大野郡ノ山間ヨリ發シ、西北ニ流レ日野川ニ會シ、西北ニ向ヒテ海ニ入ル、河口ニ坂田港アリ、長サ三十二里、運輸ノ便ニ富ム。此ノ他越後ニ荒川(廿里)、姫川(十七里)、加賀ニ大聖寺川(十八里)、越中ニ常願寺川(全上)、越前ニ日野川(廿四里)、足羽川(廿五里)等アリ。

(五) 本道ノ湖沼ハ皆海岸ニヨリテ甚大ナルモノナシ、最大ノモノト雖モ周圍七里ニ滿タス。加賀金石ノ北ヨリ海ニ通スル河北瀨アリ、周圍六里二十町、越前ノ北海ハ

湖沼

島嶼

國ノ北隅ニ位シ、周圍五里二十町、苦狹ノ三方湖ハ、三湖相連ルモノニシテ、周圍皆三里許、其ノ他能登ノ西南海岸ニ邑知瀨(三里二十町)アリ、越後ノ東方ニ福島瀨(三里三十町)等アリ。

(六) 新潟ノ西北十一里ニシテ佐渡アリ、東西七里強、南北十二里、周圍五十三里、東北及西南ヨリ灣入相迫リテ國ノ中部ヲ約シ、其形法馬ノ如シ、北部ニ金北山(二八〇〇尺)、南部ニ東教山(三、一〇〇尺)アリ、能登七尾灣中ニ能登島アリ、東西三里、南北一里十八町、周圍十四里十九町アリ、居民製鹽ヲ業トス。又越後ニ粟生島アリ、周圍凡四里。

### 第二節 人事誌

(七) 本道ノ人俗ハ概テ淳樸ナリ、而シテソノ沿岸ノ漁村ニ至レハ寬濶ニシテ貯蓄心ニ乏シ。越前ノ懸敏ナルト、加賀ノ優雅ナルトハ、特ニ描出スルニ足ル、是蓋シ越前ハ古來畿内ト北陸トヲ通ズル要路ニ當リ、且敦賀、阪井二要港アルヲ以テナリ。又加賀ハ其ノ藩政ノ主義、幕府ノ嫌疑ヲ避ケンタメ、特ニ優柔ノ風ヲ裝ヒシハ、浸潤終ニ俗ヲナシ、モノナリ。

習俗  
生業

若狹

生業ハ各地ニヨリテ異同アレドモ、多クハ耕業ヲ勉メ、其ノ他若狹、能登、及佐渡ハ水産業ニ、加賀、越中、越前、越後ハ工業ニ巧ナリ、特ニ越後ノ機械、及加賀ノ陶器最著ナル。(八)若狹塗ヲ以テ著ナル、若狹ノ小濱ハ、人口九千、酒井氏十萬三千石ノ城趾タリ。小濱ノ西方ニ高濱アリ、物産ハ繭、茶、絹織、魚貝等トス。

越前

(九)福井市ハ越前ノ中部ニ在リ、廣濶ナル原野ノ中央ニ位シ、人口四萬、市街繁華ニシテ福井縣廳此ニ在リ、松平氏三十二萬石ノ城趾タリ、國ノ西南隅ニ敦賀港アリ、日本海ノ良港ニシテ、港内廣カラスト雖モ丘陵之ヲ擁シテ風浪ヲ防ギ、水深クシテ大船ヲ容ルベシ、市況盛榮、又鐵道ニヨリテ京都名古屋ニ通ズベシ、人口一萬二千アリ、異日西比利亞鐵道成功ノ日ニ至テハ、本港ハ其直航路ニ當ルヘキヲ以テ頗有望ノ地タリ、阪井港ハ越前ノ西北ニアリ、日野河口ニ臨ミ、北國輸出ノ物産ハ、本港ヲ通過スルヲ以テ市況繁榮ナリ、人口九千アリ。

加賀

物産ハ福井、大野ノ奉書紬、羽二重、武生ノ蚊帳、奉書紙、烏子紙、鐵器、砥、罇等ナリ。(十)加賀ノ犀川、淺野川ノ間ニアル金澤市ハ、國ノ北部ニアリ、前田侯百二十萬石ノ城趾ニシテ、人口九萬七千、本道唯一ノ都會タリ、商況盛榮、巨賈軒ヲ列ス、石川縣廳及

能登

第三師團第六旅團ノ營所亦茲ニ在リ、此ノ地ノ名産ハ、丸谷燒、及銅器、象眼細工等ナリ、西南八里ニ小松アリ、人口一萬三千、大聖寺ハ國ノ西部ニアリテ、越前ノ境ニ近シ、人口九千餘、其ノ他金石、美川、鶴木等ノ諸邑アリ。物産ハ茶、繭、生絲、加賀絹、杉原紙、金、銅、重晶石等ニシテ、就中茶ハ其産出毎年五十萬貫ノ額ニ達セリ。

越中

(十一)能登ノ七尾港ハ、七尾灣内ニアリテ能登島ニ對シ、人口九千ニシテ、七尾酒釀造ヲ以テ名アリ、國ノ北岸ニ輪島アリ、輪島塗ヲ以テ有名ナリ、此ノ他宇出津、羽咋等又斯國ノ名邑ナリ、物産ハ羽咋ノ絹布、麻布、滿奄、鹽等著ナル。(十二)賣藥ヲ以テ著名ナル富山市ハ、越中神通川ノ兩岸ニ跨リ、前田家支藩十萬石ノ城趾ニシテ、人口五萬九千、北陸街道ノ要所タリ、高岡市ハ富山ノ西射水川ノ西岸ニアリテ、人口一萬八千餘、工藝製作品ヲ以テ鳴ル、其ノ他魚津、伏木等ノ名邑アリ。物産ハ金、茶、吳呂丸、及高岡ノ銅鐵器、象眼細工等アリ。

越後

(十三)越後ノ新潟市ハ、本邦五港ノ一ニシテ信濃川ニ臨ミ、水運ニ便ナルヲ以テ市街最モ繁榮ナリ、然レモ信濃河口ニ沙灘アルヲ以テ大船ヲ容ルベカラズ、人口四萬

七千、新潟縣廳ノ所在地タリ、新潟ノ東北阿賀川ヲ隔テ、松ヶ崎アリ、港水深クシテ沿岸尙軍艦ヲ泊スルヲ得可シ、信濃川ニ沿テ十七里ヲ遡レハ長岡アリ、人口一萬六千、其ノ他信濃河岸ノ名邑ニハ、加茂、上條、三條、今町、小千谷、十日町、六日町等アリテ、小千谷ハ廣瀬紬ヲ産シ、十日町、六日町ハ絹、縮布ヲ出タス。

新潟ノ東方七里ニシテ新發田アリ、溝口氏十萬石ノ城趾ニシテ、人口一萬二千、第二師團第十六聯隊ノ衛戍地タリ、國ノ東北部海岸ニ村上アリ、其ノ他新潟ノ東南ニ水原、五泉、村松ノ諸邑アリ、五泉ハ有名ナル五泉平ノ產地タリ、新潟海岸ニ沿フテ南ニ下レハ寺泊、出雲崎、柏崎、直江津ノ諸邑アリ、何レモ北國ノ名津タリ、直江津ノ西南ニ高田アリ、中山道鐵道ノ線路ニ當ル、榊原氏十五萬石ノ城趾ニシテ、人口二萬六千アリ、高田西方海岸ニ絲魚川アリ、マタ斯國ノ名邑ナリ。

越後ノ物産ハ米、大豆、麻、烟草、石炭、石油、金、銅、鱈、鮭、及各種ノ織物製作品ニシテ、就中米ハ二百萬石以上ヲ産シ全國ノ主位ヲ占メ、織物ハ縮、紬、絹、精好平最名アリ、其ノ他清酒ノ醸造亦多シ。

佐渡

(十四) 佐渡ノ相川ハ國ノ西岸ニアリテ、人口一萬二千、夷港ハ東岸ニアリテ、新潟ト

ノ交通頻繁ナリ、物産ハ金、銀、及陶器トス、殊ニ金坑ヲ採鑛以來三百年ヲ經タルモ、產出猶盛ニシテ、今ハ帝室財産ニ編入セラレタリ。

(參照)

北條氏既ニ源氏ヲ亡ボシテ、驕借益甚シク、義時、泰時心ヲ協セテ、屢朝廷ヲ凌辱セリ、後鳥羽、土御門、順德ノ三上皇、即チ承久三年ヲ以テ、院宣ヲ請國ニ下シテ、勤王ノ師ヲ募リ給ヘリ、義時之ヲ聞キ兵十九萬ヲ突シテ、直ニ京師ニ攻メ登ラシメシカバ、官軍支フルコト能ハス、終ニ大ニ敗レタリ、上皇再院宣ヲ下シテ、北條氏ノ心ヲ釋カントセラレシモ、義時之ヲ奉セス、仲恭天皇ヲ廢シ三上皇ヲ隱岐、四國、佐渡ニ遷シ奉レリ、實ニ前古未聞ノ暴逆ナリト謂フベシ。

後鳥羽上皇(一院)申す、隱岐に在るこゝ十九年)

我こそは新島守よ澳の海あらし波風心してふけ

土御門上皇(中院)申す、土佐及阿波に在せるこゝ十一年)

浦々によする白浪こまゝはんさきのこゝこそ聞かまほしけれ

順德上皇(新院)申す、佐渡に在せるこゝ廿二年)

なからへてたまへば末に歸るこゝも憂はこゝの世の都なりけり

### 第五章 山陰道誌

#### 第一節 成立及總貌

成立

(一)本州ノ西部日本海ニ面スル一帯ノ地ト、日本海中ナル隱岐島トヲ合セテ山陰道トス。東ハ北陸畿内ニ接シ、南ハ中國山脈ヲ以テ山陽道ト界ス。氣候概テ寒冷ナレ、緯度稍卑ク、且南方ノ山脈高峻ナラザルヲ以テ、北陸道ニ比スレバ稍ヤ温暖ニシテ積雪亦深カラズ。本道東西延長八十里、南北凡二十里、面積一千百九方里、人口百八十四万八千七百四人ニシテ、之ヲ面積ニ配スレハ、一方里平均一千六百六十七人餘ナリ。全道ヲ丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐ノ八ヶ國ニ分テ、京都府、及兵庫島取、島根ノ三縣ヲ以テ之ヲ分轄ス。

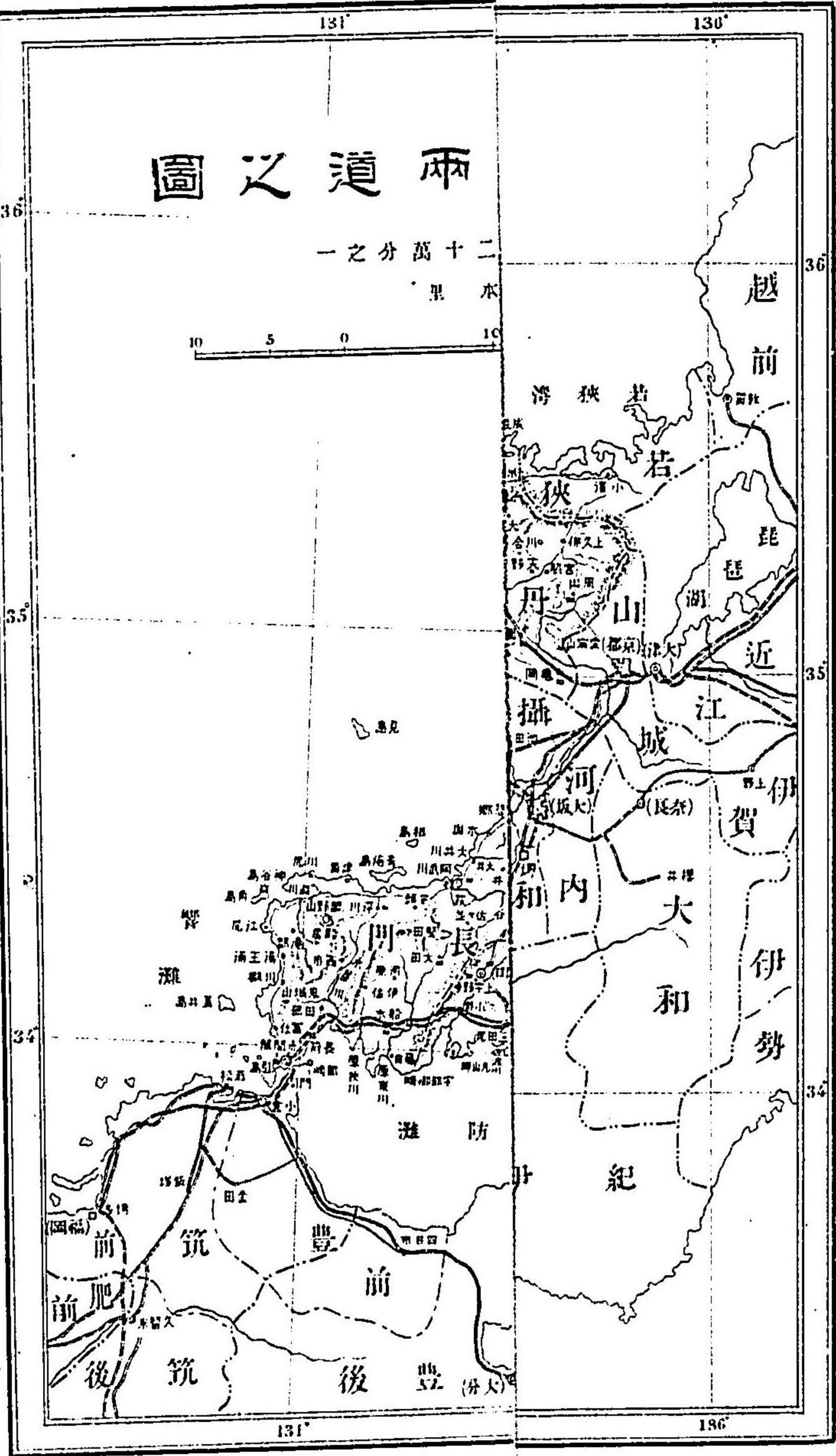
(參照)

丹波(舊名且波ノ内)七郡

南桑田、北桑田、船井、天田、何鹿、水上、多紀

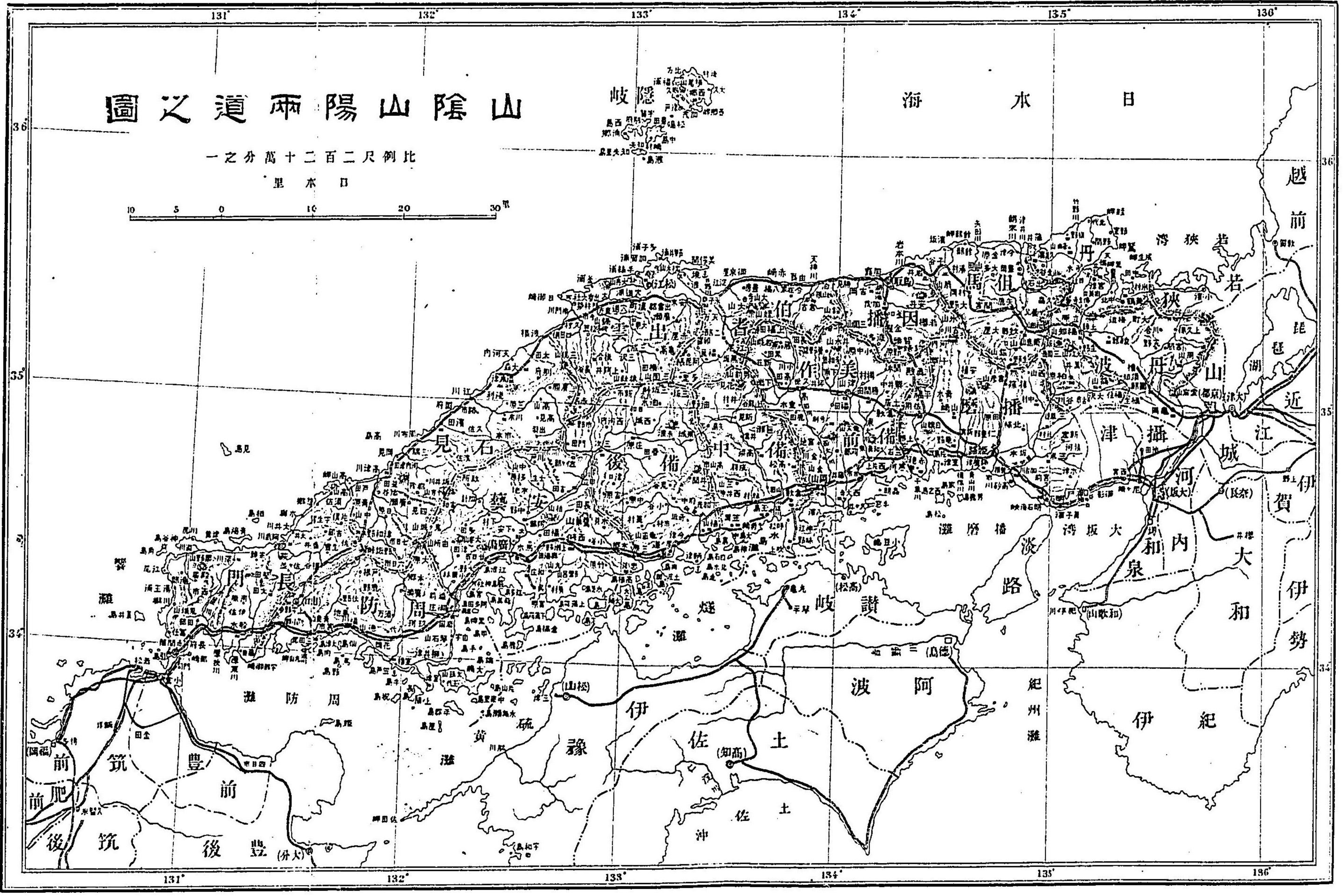
丹後(全上)五郡

加佐、與謝、中、竹野、熊野



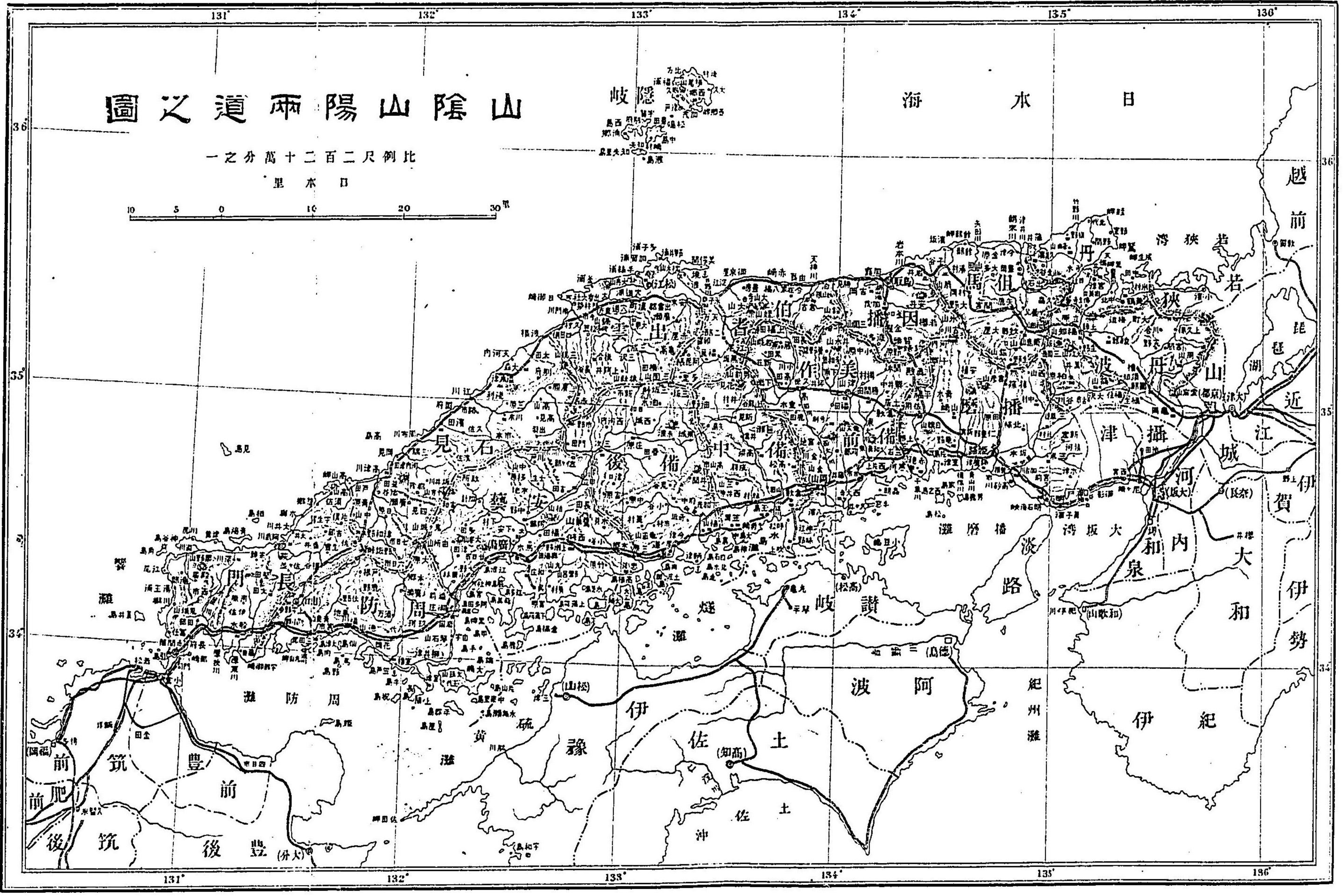
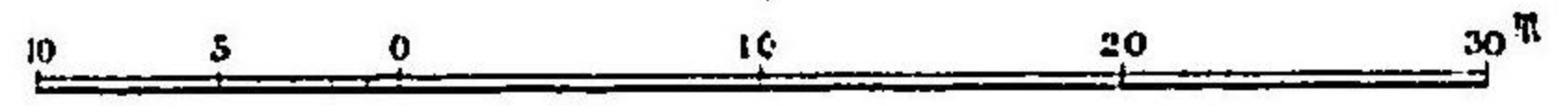
京都府之内兵庫縣之内島取縣岡山縣島根縣廣島縣山口縣島根縣管下

京都府之内兵庫縣之内鳥取縣岡山縣島根縣廣島縣山口縣島根縣管下



# 山陰山陽兩道之圖

一之分萬十二百二尺例比  
里 水 口





山嶽

但馬(舊名多遲摩若クハ田道間)八郡

城崎美合、出石、氣多、養父、朝來、七美、二方、

因幡(舊名稻羽)九郡

邑美、法美、岩井、八上、八東、智東、智頭、高草、氣多、

伯耆(舊名伯伎)六郡

汁入、會見、河村、久米、八橋、日野、

出雲(全上)十郡

島根、秋鹿、意宇、能義、仁多、大原、出雲、指縫、神門、飯石、

石見(全上)六郡

邇摩、安濃、邑智、那賀、美濃、鹿足、

隱岐(舊名隱岐又淤岐)四郡

周吉、隱地、海士、知夫、

(一) 本道ノ總貌ヲ概見スレバ稍北陸道ト相類シ、南境ニ高ク北面日本海ニ向ヒテ  
低落シ、地帶狹隘ナルヲ以テ傾斜頗急ナリ。故ニ其河流モ山陽道ヨリ來ル江ノ川ヲ  
除クノ外ハ、急流ニシテ短シ、海岸概平夷ニシテ、丹後、出雲ニ於イテ屈折ヲ見ルノミ

山陰道、成立、總貌

ナリ。  
 本道ノ山岳ハ皆中國山脈ニ屬スルモノニシテ、高山少ナク、最高ノモノト雖モ猶六千尺ニ滿タズ。石見、安藝ノ境ニハ十方山アリ、出雲ノ境ニ三瓶山ノ火山(三八七〇尺)アリ。伯耆ノ中央ニ大山(五八八〇尺)アリ、大山ハ中國最高山ニシテ、其麓ヲ大山ノ原ト稱シ、多ク牛馬ヲ牧セリ、其東方ニ船上山アリ、高カラスト雖モ史上ニ名アリ。伯耆美作ノ境ニ三國山アリ、因幡ノ東ニ稻葉山アリ、丹波ノ西北隅ニ大江山(二七三〇尺)アリ。

(三) 本道ノ川流中最モ長大ナルヲ石見ノ江川(石見川)トス、長サ五十里、舟楫ヲ通スルコト二十里ニ過グ、上流ヲ吉田川ト云ヒ、石見、安藝ノ境ニ發シ、屈曲シテ備後ニ入リ、其東境ヨリ來ル諸川ヲ合セ、三次川トナリ、更ニ石見ニ轉シテ日本海ニ注ク。江川ニ次クモノヲ丹後ノ由良川トス、其ノ上流ヲ丹波ノ和知川ニシテ、源ヲ其ノ東境ニ發シ、丹波北部ノ水ヲ集メ、丹後ニ入り、與謝灣ニ注ク。流程二十七里、舟楫ノ利アリ。但馬ニハ東西ニ並行シテ二流アリ、東方ヲ豊岡川一名ヲ朝來川ト稱シ、流程十六里、西方ヲ矢田川ト云フ、流程十三里アリ。因幡ニハ千代川アリ、長サ十二里、伯耆ニ至レ

河流

湖沼

ハ日野川アリ、長サ十七里、舟楫ノ便ナキモ灌溉ノ利アリ、出雲ニ神門川(十九里)及大川アリ、大川ハ流程二十里、舟筏ヲ通シ、灌溉ノ便アリ、宍道湖ニ入ル。高津川ハ石見ノ西方ニ在リ、流程十五里半、舟楫ヲ通ス。

(四) 本道ノ湖沼ヲ出雲ノ宍道湖ヲ最トス、東西四里餘、南北一里半、周圍十三里、湖上風光頗佳ナリ、湖水東流シテ中海ニ入ル。中海ハ外海ト通スル鹹湖ニシテ、長サ五里、幅三里餘、周圍十六里、島根半島、及伯耆ノ夜見濱ニ包マレ、水運ノ利ニ富ム。伯耆ノ米子港ハ、即其東南隅ニアリ、又因幡ノ海岸ニ湖山地アリ、周圍三里餘、伯耆ノ海岸ニ東郷地アリ、周圍二里餘。

島嶼

(五) 本道ノ島嶼ノ大ナル者ヲ隱岐國トス、隱岐ハ出雲ノ北方二十七里ニ在ル、一大島及三小島ヨリ成ル、其ノ大ナルモノヲ島後ト云ヒ、他ヲ島前ト稱ス、島前更ニ分チテ中ノ島、知夫里島、西島ト云フ、全島面積二十一、方里、島後ノ東南沿岸ニ西郷アリ、國ノ名港タリ、其ノ他知夫里島ニ知夫港アリ、本島元來地瘠ニシテ耕作ニ適スル所尠ナシ。

### 第二節 人事誌

習俗  
生業

(六) 本道ノ風俗ハ概淳樸ナリ、是土地邊隅ニシテ交通ニ便ナラサルニ由ル、而シテ出雲ハ稍優柔ノ傾アリ。

本道ノ東部及西部ハ、土地瘠薄ナルヲ以テ農産ノ利少ナク、漁業採鑛ニ従事スルモノ多シ、中部諸川ノ河領ハ肥沃ニシテ、米綿等ヲ耕作スルモノ多シ。

(七) 龜岡(舊名龜山)ハ丹波ノ東南ニ當リ、京都ニ通スル要路ニ在リテ交通運搬ノ便アリ、人口七千、篠山ハ播磨攝津ニ通スル要路ニ當ル、福知山ハ國ノ北方ニ在リ、其ノ他繞部、柏原等皆名邑ナリ。

丹波ノ物産ハ茶、烟草、薪炭、牛、栗、柿等ナリ。

(八) 丹後ニ宮津、舞鶴アリ、共ニ與謝灣ニ臨メル要港タリ、宮津港ハ其ノ東北黑崎ニ擁セラレテ風波ノ虞ナク、水深クシテ巨船ヲ舶セシムベシ、故ニ市街繁榮、人口一万余アリ、宮津ノ北ニ當リテ、一帶ノ砂洲南向シテ海上ニ斗出スル、里餘、老松蟠蟠シテ之ヲ蔽ヒ、宛然長橋ノ波ニ伏スルカ如シ、之ヲ天ノ橋立ト云フ、日本三景ノ一ナリ

丹後

丹波

但馬

因幡

伯耆

出雲

齋藤松堂ノ句ニ曰ク、松被梯身作鱗鬣、蜿蜒臥波萬丈龍ト勝景想フヘキナリ、舞鶴、舊名ヲ田邊ト謂フ、宮津ノ東南六里ニ在リ、灣内袋形ヲナシ、數百ノ巨船ヲ容ル、ニ足ル、第四鎮宗府ノ豫定地ナリ。

丹後ノ物産ハ縮緬、紬、繭、牛ヲ最トス。

(九) 但馬ノ豊岡、及出石ハ、共ニ名邑ニシテ、人口六千乃至七千ヲ有セリ、生野ハ國ノ南部ニ在リ、銀產地トシテ著ハル、湯島ノ温泉ハ豊岡ノ北ニアリテ、浴客常ニ多シ、物産ハ豊岡ノ柳行李、出石ノ陶器、及牛、生絲、杉原紙、麻、等ナリ。

(十) 鳥取市ハ因幡ノ海濱ニ在リ、千代川ノ下流ニ當ル、人口二萬九千餘、鳥取縣廳ノ所在地ニシテ、池田侯三十二萬石ノ城趾タリ、其ノ他海濱ニハ加露アリ、岩井ノ温泉亦著ハル、物産ハ牛、藍、白珊瑚等ナリ。

(十一) 伯耆ノ米子ハ其西隅ニ在リテ中海ニ臨ム、人口一萬四千、北海ノ要津タリ、境港ハ夜見濱ノ北端ニアリ、倉吉ハ國ノ支部、天神川ノ河領ニアリテ、綿布ヲ産ス、物産ハ綿、麻、甘藷、鐵、石灰等ナリ。

(十二) 出雲ノ松江市ハ宍道湖ノ東岸ニ在リ、本道第一ノ都會ナリ、人口三萬六千、島

根縣廳ノ所在地ダリ、市況繁榮ニシテ、松平氏十八萬六千石ノ城趾ナリ、隱岐ニ渡ル要津美保關ハ、島根半島ノ東端ニアリ。西海岸ニアル杵築ハ、出雲大社ノ所在地ナリ、出雲大社ハ神代鎮座ノ古社ニシテ、大國主神ヲ奉祀スル所ナリ。國ノ東部ニ廣瀬アリ其東南ニ富田城趾アリ、尼子氏ハ據リテ以テ雄ヲ中國ニ稱セシ所タリ。物産ハ米、麥、綿、人參、密柑、鱧ワツナギ、十六島海苔、銅、鐵、陶器、紙等ニシテ、鐵ノ如キハ石見ト共ニ全國ノ主位ヲ占ム。

石見

(十二) 石見ノ濱田ハ濱田浦ニ臨ミ、灣内水深クシテ船舶輻湊市街繁榮ナリ。津和野ハ高津川ノ上流ニ臨ミ、長門周防ニ出ヅル要路ニ當ル。其ノ地益田、大森等ノ名邑アリ。物産ハ紙、麻、陶器、銀、銅、鐵等アリ。

隱岐

(十四) 隱岐ノ西郷港ハ島内第一ノ都會ニシテ、美保ノ關ヲ距ル二十里、貨物ノ出入主トシテ此ニ依ル。西端ニハ後醍醐天皇ノ黒木御所ノ舊趾アリ。中島ハ後鳥羽院ノ陵アリ。物産ハ木材、鯛、干鰯等ナリ。

(參照)

其一 北條氏既ニ源氏ヲ亡ボシ、驕僻益甚メシク、義時泰時心ヲ協セテ慶朝廷ヲ凌辱

セリ、後鳥羽、土御門、順徳ノ三上皇、即チ承久三年ヲ以テ、院宣ヲ諸國ニ下シテ、勤王ノ師ヲ募リ給ヘリ、義時之ヲ聞キ、兵十九萬ヲ發シテ、直ニ京師ニ攻メ登ラシメシカハ、官軍支フルコト能ハス、終ニ大ニ敗レタリ、上皇再院宣ヲ下シテ北條氏ノ心ヲ釋カントセラレシモ、義時之ヲ奉セス、仲恭天皇ヲ廢シ、三上皇ヲ隱岐、四國、佐渡ニ遷シ奉レリ、實ニ前古未聞ノ暴逆ナリト謂フベシ。

後鳥羽上皇(一院)申す、隱岐に在せること十九年、我こそは新島守よ淡の海あらしき波風心して吹け

土御門上皇(中院)申す、土佐及阿波に在せること十一年、

浦くによする白浪、こころはんさきのこころ、そ間にましかれ

順徳上皇(新院)申す、佐渡に在せること廿二年、

なからへてたごへは末に歸るごも憂はこの世の都なりけり (再録)

其二 元弘元年、北條高時兵ヲ率井テ京師ヲ犯シ、後醍醐天皇ヲ廢シテ隱岐ニ遷シ奉リ、皇太子ヲ迎立シテ光嚴帝ト申シ奉ル、幾モナク楠正成、新田義貞等、勤王ノ師四方ニ起リ、遂ニ北條氏ヲ滅セリ、天皇モ亦潛ニ侍臣ト共ニ、隱岐ヲ逃レ出テサセ給ヒ、伯耆ニ至リ、名和長年ヲ召サレシニ、長年直ニ詔ヲ奉シ、行宮ヲ船上山ニ造リテ義兵ヲ聚メ、是正ニ元弘三年ニシテ、後建武ノ中興ヲ觀ルニ至リシモ、亦長年忠勤ノ致セル所ナリ

山陰道、隱岐

ト謂フ可シ、天皇之ヲ嘉賞シ、勅書ヲ賜ヒ、且其奥ニ  
わすれめやよるべし波のあらいを御船の上にとめし心を、

### 第六章 山陽道誌

#### 第一節 成立及總貌

成立

(一) 中國ノ南面、瀬戸内海ニ瀕スル一帯ノ地ヲ山陽道ト云フ、北ハ山陰道ニ、東ハ畿  
内ニ、南ハ内海ヲ隔テ、南海道ニ對シ、西ハ赤馬ヶ關海狹ヲ隔テ、西海道ニ對ス。氣  
候中和ニシテ雨量少ナク、東西百七里、南北平均十五里ニシテ、面積一千五百七十方  
里、人口四百十三万六千四百二十一人、之ヲ一方里ニ配スレハ二千六百三十四人ニ  
至ル。全道ヲ播磨、美作、備前、備後、安藝、周防、長門ノ八ヶ國トナシ、兵庫、岡山、廣島、山  
口ノ四縣ヲ以テ之ヲ分轄ス。

(參照)

播磨(舊名針田)十五郡

明石、美濃、如東、多可、加西、加古、印南、飾東、飾西、神東、神西、揖西、赤穂、佐用、穴栗、

美作(舊名吉備)十三郡

眞島、大庭、西北條、西條、東南條、東北條、勝北、吉莖、英田、勝南、久米、北米、南條、

備前(全上)八郡

御荻、津高、赤坂、磐梨、和氣、邑久、上道、兒島、

備中(全上)十一郡

都宇、窪屋、淺口、小田、後月、下道、賀陽、上房、川上、哲多、阿賀、

備後(全上)十四郡

御調、世羅、深津、沼隈、安那、芦田、品治、神石、甲奴、三次、三輪、奴可、三上、惠蘇、

安藝(舊名阿岐)八郡

安藝、佐伯、沼田、高宮、山縣、高田、加茂、豐田、

周防(舊名周芳)六郡

大島、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷、

長門(舊名穴門、穴戸)六郡

厚狭、豐浦、美稱、大津、阿武、見島、

(二) 本道ノ沿岸屈折甚タ多ク、大小數百ノ島嶼其ノ前ニ碁布セリ、瀬戸内海ハ、播磨  
ノ東南端明石ノ瀬戸ヨリ、赤間ヶ關海狹ニ至ル間ヲ云フ、其ノ内周防ノ前面ナルヲ

總貌

山陽道、成立、總貌

島嶼

周防灘ト云ヒ、安藝ノ前面ナルヲ燈灘ト云フ、硫黃灘其間ニ在リ、備中ノ前面ニ水島灘アリ、播磨ノ前面ニ播磨灘アリ。

(三) 本道ハ島嶼甚ク多シ、今其大ナルモノヲ記セハ、播磨ニハ家島アリ、備前ニハ鹿久井島、備中ニハ白石嶋、大崎島アリ、廣島灣口ノ東ニ倉橋島(二十六里、其ノ北ナル一島ノ東部ヲ江田島ト云ヒ、其ノ西部ヲ西能美島ト云フ、其ノ南部ヲ東能美島ト云フ、其ノ西北ニ當リテ巖島アリ、周防ノ東岸ニ大島アリ(三十一里、其ノ他平郡島、長島、笠戸島、向島アリ、赤間ヶ關ノ西南ニ引島アリ、長門ノ西岸ニ角島アリ、北岸青海島アリ、遙ニ日本海中ニ見島アリ。

山嶽

(四) 本道ハ高山ニ乏シク、播磨ノ北境ニ雪彦山、笠形山(三四六〇尺)アリ、書寫山(一六一六尺)ハ其中部ニ位シ、山上天台ノ巨刹アリ、那岐山(五二六〇尺)ハ美作ニアリ、其西北ニ位スルヲ蛭山トナス、熊山(一七三六尺)ハ備前ノ中央ニ在リ、備中ノ西方ニ彌高山アリ、備後ノ中央ニアル御神山ハ、奇岩怪石重疊シテ、自然ニ橋梁ヲナス、世稱シテ鬼橋ト云フ、安藝ノ東ニ鷹巢山(三二九七尺)アリ、西ニ鬼城山(五五三八尺)アリ、長門ノ東北ニ徳佐峯(三千二百八十尺)アリ。

河流

(五) 本道ノ川流ハ長門ノ阿武川ヲ除クノ外、悉ク瀬戸内海ニ注ク、阿武川流程十五里、僅カニ舟楫ヲ通ス、備前ノ東大川及西大川ハ本道ノ主ナルモノニシテ、東大川源ヲ伯耆美作ノ境ニ發シ、美作ヲ貫流シテ津山川ト稱セラレ、加茂川ヲ併セテ備前ニ入リ、東大川トナル、長卅餘里、舟楫ノ便ヲ有スルモノ二十里、西大川(旭川)ハ美作ナル高田川ノ下流ニシテ、流程三十餘里、舟ヲ通スルヲ二十六里、其ニ灌溉ノ利ヲ有スルヲ大ナリ、播磨ノ東部ヲ流ル、加古川ハ、丹波久下川ノ下流ニシテ、長サ卅里、舟楫ヲ通スルヲ廿里、備中ノ河邊川上流ヲ高梁川ト稱シ、南流シテ海ニ入ル、流程凡ソ三十里、通舟廿里、灌溉ノ便ヲ有ス、之ニ次クモノヲ周防ノ岩國川、及安藝ノ太田川トナス、岩國川ニハ有名ナル錦帶橋ヲ架ス、流程廿四里、太田川ハ流程廿三里ニシテ、其ニ舟楫ノ便アリ、安藝ノ吉田川ハ、石見江川ノ上流ニシテ、北部ノ水ヲ集メテ石見ニ入ル、其ノ他周防ニハ佐波川(十四里)アリ、備後ニ蘆田河(十一里)アリ、播磨ニ揖保川、千種川(共二十五里)アリ。

(六) 本道湖沼ニ乏シク、長門ノ常盤湖最モ大ナリトス、周圍三里餘ナリ。

湖沼

### 第二節 人事誌

習俗

播磨

(七) 瀬戸内海古來東西交通ノ要路ニシテ諸所ニ良港ヲ有ス故ニ本道ノ民情ハ概テ怡愉ニシテ機智ニ富ミ能ク貨殖ニ勵ム地味膏腴ニシテ農事ニ從フモノ多ク沿海ノ民又多ク漁業ヲ勉ム殊ニ製鹽ハ本邦ノ主位ヲ占ム是雨量ノ少キニ由ルナリ

(八) 姫路市ハ播磨ノ南部ニ在リ市川ニ臨ム、人口凡二万七千、中國街道ノ要區ニシテ舊時ノ酒井氏十五萬石ノ城地タリシ所、商業繁盛、古來草細工ヲ以テ有名ナリ、姫路城ハ本邦名城ノ一ニシテ、北ハ書寫山ヲ控ヘ、南ハ海ニ面シ、東ハ市川ノ長流ニ枕ミ、西ニハ茫々タル原野アリ、五層ノ天主閣ハ巍然トシテ雲表ニ聳ヘ、白鷺城ノ名遠近ニ著ハル

東南海岸ニアル明石ハ、兵庫ニ接近シ、人口二万餘、繁華姫路ニ次ク、帆木綿、明石縮ヲ産ス、明石ヨリ兵庫ニ至ル海岸ハ、舞子濱ト稱シ、古來有名ノ勝地タリ、老松相依リテ細波軟波ヲ洗フ、淡路島ソノ常頭ニアリテ、喚ヘハ答ヘント欲ス、高砂ノ松ヲ以テ有名ナル高砂其西ニ連ル、製鹽ヲ以テ著名ナル赤穂ハ國ノ西南端ニアリ。

#### (參照)

赤穂藩主淺野長矩、私憤ヲ以テ吉良義英ヲ城中ニ斬リ之ヲ傷ク、幕府死ヲ長矩ニ賜ヒ其領地ヲ没ス、長矩ノ遺臣大石良雄等四十七人、竊ニ其主ノ仇ヲ復セント欲シ、辛苦經營スルヲ多年、終ニ元祿十四年十二月十四日ノ夜、義英ヲ其邸ニ襲ヒテ之ヲ殺シヌ、幕府其忠烈ヲ感ミシモ、法ノ許サレハトテ亦死ヲ賜ヘリ、後世傳ヘテ美談トス

西方ナル龍野ハ醬油ヲ以テ著ハル、其ノ他ノ名邑ニハ、飾磨津、三木、室津等アリ、物産ハ姫路ノ菘、三木ノ刃物、明石縮、高砂染及米、綿、銀等トス。

美作

(九) 美作ノ名邑ニハ津山アリ、人口一萬二千、山陰山陽交通ノ要路ニ當ル、松平氏十萬石ノ城地ニシテ、布衞繁榮ナリ、是ヨリ高田ヲ經テ伯耆ノ米子ニ達スヘシ、高田ハ津山ノ西ニアリ、倉敷、久世、其ニ斯國ノ名邑タリ、斯國ノ院莊ハ、往時後醍醐天皇隱岐ニ遷幸ノ際、兒島高德、暗夜櫻樹ヲ削リテ志ヲ述ヘシ所ナリ。

#### (參照)

元弘ノ亂ニ當リ、官軍利ヲ失ヒシカハ、北條高時勢ニ乘シテ、後醍醐天皇ヲ隱岐ニ遷シ奉ラントセリ、備後ノ人兒島高德之ヲ途ニ要シヌ、輿ヲ復シ奉ラントセシモ及ハサリシカハ、乃馳セテ御後ヲ逢ヒマヅラセシニ、風聲既ニ院莊ニ入ラセ給ヒ、警衛殿ニシ

テ亦如何トモスル丁能ハサリキ、高徳憤然、傍ナル櫻樹ヲ白フシ、履シテ曰ク、天莫空勾踐、時非無范蠡ト、武士等明且之ヲ見テ大ニ怪メトモ、誦シ得ルモノナカリケレハ、乃チ入リテ炎上セリ、天皇見給ヒテ竊ニ喜ハセ給ヘリトゾ。

物産ハ雲齋織ヲ尤トス。其ノ他煙草、茶、綿花、硯材、高田等最モ著ハル。

備前

(十) 備前岡山市ハ、池田侯卅一萬五千石ノ城市ニシテ、旭川ニ枕ミ、人口四萬七千、岡山縣廳ノ所在地ナリ、地ハ兒島灣ニ近キテ以テ、水陸運漕ノ便ニ富ミ、市街繁榮ナリ、西大寺、牛窓、蟲明等斯國ノ名邑ナリ。

物産ハ伊部ノ陶器、蘭席、綿絲、及米、煙草、綿花等トス。

備中

(十一) 備中ノ名邑ハ、國ノ東南ナル倉敷、沿岸地方ノ玉島、笠岡、及北部ノ高梁等ニシテ、共ニ人口七千ヲ出テスト、雖モ、市況繁榮ナリ。就中玉島、夙ニ良港ノ名ヲ博ス。此國、賀陽郡ニ吉備津神社アリ、仁徳帝ノ御宇建立セラレタルモノ、規模宏大悉ク古式ニヨル。

物産ハ銅、鐵、蘭席、綿、煙草、鰻等トス。

備後

(十二) 備後ノ福山ハ、人口一萬五千餘、殷盛ノ一商區ニシテ、阿部氏十一萬石ノ城市

タリシ所ナリ、其西ニ尾道港アリ、本道主要ノ地ニシテ、内海商船此ニ寄港セサルハナク、諸國ノ貨物集配ノ要津タリ、人口一萬八千アリ、鞆津、三原、亦斯國ノ名邑タリ、御調郡魚崎浦ニ糸崎神社アリ、宇佐八幡宮ヲ勸請シタル所ニシテ、境内ノ古井ハ神皇皇后ガ三韓征伐ノ際、御用水ヲ汲取リ給ヒシ所ナリトゾ。

安藝

(十三) 中國唯一ノ都會タル安藝ノ廣島市ハ、廣島灣頭ニ在リ、昔ハ淺野侯四十二萬六千石ノ城地ニシテ、岡山ヲ去ル四十四里、太田川之ヲ貫流シ、百貨輻湊、商業繁榮ナリ、人口九萬一千、廣島縣廳ノ所在地ニシテ、第五師團ノ衛戍地タリ、綿、蚊帳、傘、藥罐等ヲ産ス。太田川口ニ宇品港アリ、廣島ニ通スル要津タリ、之ヨリ海上五里嚴島アリ、一ニ之ヲ宮島ト云フ、北岸ニ嚴島神社アリ、市杵島姫ヲ奉祀スル所、往昔平清盛ノ造營ニ係レリ、老松怪石參差シ、春ハ櫻花、秋ハ楓葉ノ觀アリ、祠宇壯麗、潮來レハ神殿廻廊悉ク波上ニ浮ビ、奇觀云フヘカラス、日本三景ノ一タリ、神山漂渺、小蓬萊、七里風烟、與海開ノ句能ク其勝概ヲ盡セリ、廣島ノ西ニ大野、大竹アリ、東ニ吳、竹原、忠海アリ、吳港ハ第二鎮守府ノ所在地ニシテ、倉橋、江田ノ二島ニ包容セラレ、水深クシテ大船ノ出



入自在ナリ、南方音戸瀬戸ハ清盛ノ開鑿セシ所ニシテ、水淺ク大船ヲ通スヘカラス  
江田島ニハ海軍兵學校アリ。

物産ハ米、綿、麻、藍、烟草、牡蠣、砂、鐵金等ニシテ、殊ニ綿絲、綿織ヲ最トス。

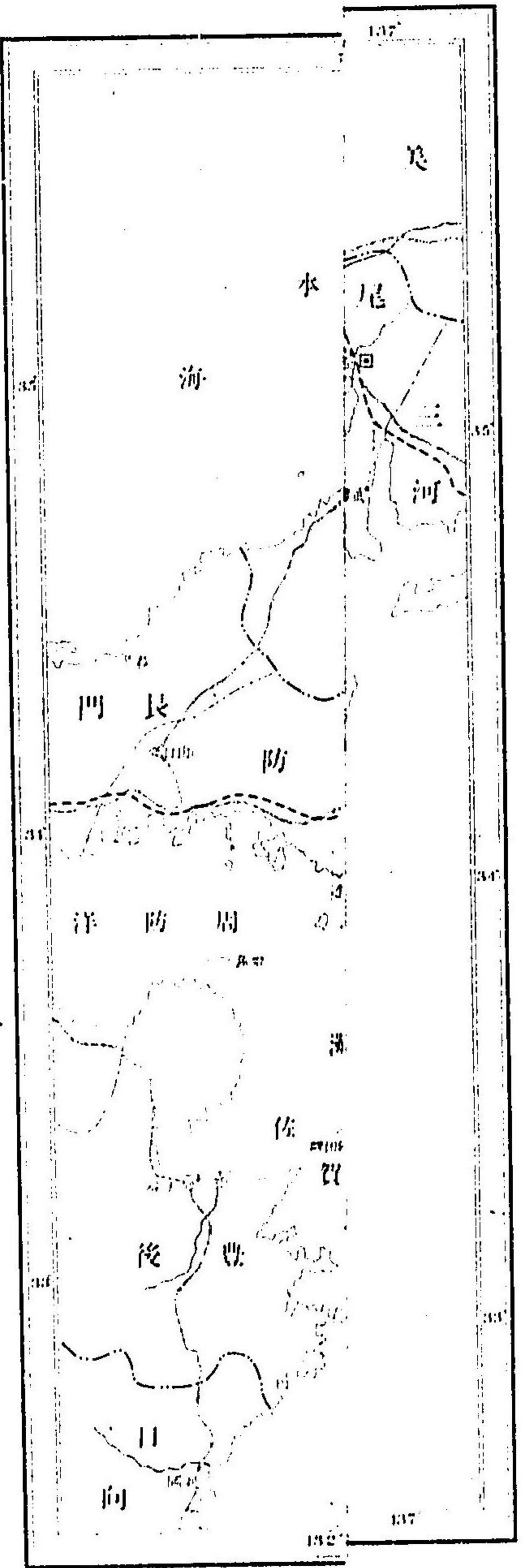
(十四) 山口市ハ周防ノ西境ニアリ、山口縣廳ノ所在地ニシテ、山岳四境ヲ圍ミ、長門  
ニ通スル要地ニ當レリ、人口一万五千。岩國ハ岩國川ニ枕ミ、縮ヲ産スルヲ以テ著ハ  
ル、人口九千。南岸ニアル徳山ハ、人口一万二千餘アリテ、市況繁榮ナリ。其ノ他室津、宮  
市、三田尻共ニ著名ナリ。三田尻ハ人口一萬餘ニシテ、市街宮市ニ聯リ、山口ニ通スル  
要津タリ。

周

物産ハ大島木綿、米、茶、鹽ヲ産ス、殊ニ鹽ハ其額ノ夥多ナル本邦ノ主位ヲ占ム。

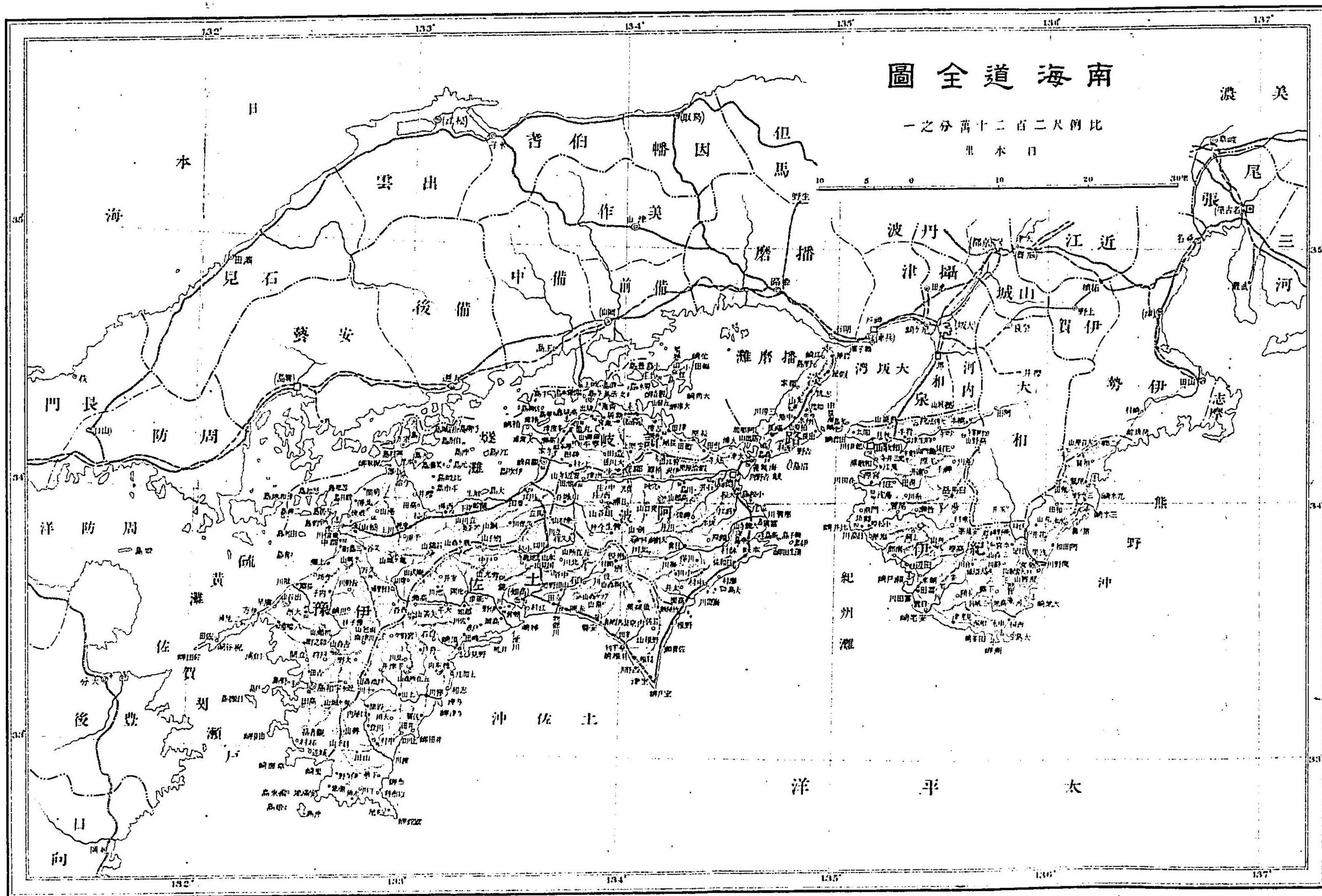
(十五) 萩ハ長門ノ北岸ニ在リ、阿武川ニ臨ミ、人口二萬、毛利公三十六萬九千石ノ城  
趾ニシテ、市街繁榮ナリ。下ノ關(赤間ヶ關又馬關)ハ長門ノ西南端ニアリ、本邦有數ノ  
要港ニシテ、實ニ内海ノ關鍵タリ、人口三萬三千許、其ノ傍近ニ豊浦、小月ノ諸邑アリ  
豊浦ト下ノ關ノ間ヲ壇ノ浦ト稱ス、即平氏沒落ノ地タリ。

(參照)



和歌山縣、德島縣、香川縣、高知縣、愛媛縣、兵庫縣管内

和歌山縣德島縣香川縣高知縣愛媛縣 兵庫縣管内



平氏ノ軍、連戰連敗、即退キテ鎮西ヲ保タントセシモ、源範賴既ニ豊後ニアルヲ以テ、壇之浦ニ泊セリ、義經追撃又之ニ薄ル、會々平氏ノ軍中、欸ヲ源氏ニ通セルモノアリシカハ、教經知盛等勇猛ノ士殊死憤戦之ニ敵スルモ、遂ニ及ハスシテ、平氏ノ一族悉ク海ニ投シテ自殺セリ、時ニ安徳天皇尙幼冲ニマシマシ、ヲ以テ、清盛カ妻ニ抱カレ給ヒシカ、俱ニ波底ニ崩シ給ヘリ、義經即皇太后ヲ救ヒ奉リ、宗盛等ヲ生擒シ、神鏡、神璽ヲ索メ得テ凱戦セリ、時ニ文治二年三月ナリ、平氏政ヲ執レルルヲ十九年、茲ニ至リテ滅亡セリ。

安積良齋之ヲ吊シテ曰ク、

黒風吹、海浜掀天、往事悠悠、轉可憐、萬馬東來犯城闕、六龍西幸御樓船、冕旒空葬潭中月、粉黛俱銷浦上烟、千古崖山同峻節、君臣至死不替捐、

國ノ南部ニ小田野工業地アリ、セメント、硝子製造ノ諸會社ヲ有シ、頗ル盛況アリ、長門ノ名産ハ蠟石、鹿ノ子染、鯨鱈、及赤間ケ關ノ硯ヲ其ノ重ナルモノトス。

## 第七章 南海道

### 第一節 成元及總貌

成立

(一) 本道ハ畿内及山陽道ノ南ニ當リ、東ハ北海道ニ接シ、西ハ海ヲ隔テ、西海道ニ

山陽道、長門、南海道、成立

臨ミ、南ハ大太平洋ニ面シ、本州ニ接スル紀伊國ト四國淡路ノ二島トヨリ成ル。氣候ハ甚温暖ニシテ、内海沿岸ノ地方ハ降雨少キモ外洋ニ面スル地方ハ夏期ノ雨量多シ面積凡一千五百九十八方里、人口三百八十一万四千九百九十五人ニシテ、之ヲ一方里ニ配スレハ二千四百四十九人餘ニ當ル。本道ヲ分チテ紀伊、淡路、讃岐、阿波、伊豫、土佐ノ六國トシ、和歌山、三重、兵庫、徳島、香川、愛媛、高知ノ七縣之ヲ所管ス。

(參照)

紀伊(舊名木又ハ紀)十郡

名草、海部、那賀、伊都、有田、日高、東牟婁、西牟婁、南牟婁、北牟婁、

淡路(舊名粟路)二郡

津名、三原、

阿波(舊名粟)十郡

名東、勝浦、那賀、海部、名西、板野、阿波、麻殖、美馬、三好、

讃岐(舊名讚吉、讚藝)十一郡

大内、寒川、三木、山田、香川、阿野、船足、那珂、多度、三野、豊、

伊豫(舊名伊奈又ハ伊與)十八郡

風草、和氣、温泉、久米、越智、野間、新居、周布、桑村、宇摩、下浮穴、伊豫、上浮穴、喜多、西宇和、東宇和、南宇和、北宇和、

土佐(舊名土在)七郡

土佐、幡多、高岡、吾川、長岡、香美、安藝、

總説

(一) 本道ノ海岸ハ概斷崖ニシテ屈折多シ、紀伊ハ本州ノ南端ニアリテ黒潮ハ其ノ近海ヲ流駛ス、故ニ其ノ南方ニ突出スルヲ潮岬ト云フ、西北端ニ田倉崎アリテ、其ノ西方ニ友ガ島アリ淡路ノ生石崎ト對セリ、此間ヲ由良ノ海峡ト謂ヒ大坂灣ノ海門ヲナス淡路ノ西端ニアリ、門岬ハ恰モ阿波ノ彌岬ト相對ス、此間ハ有名ナル阿波ノ鳴門ニシテ、潮流急激渦旋狀ヲナシ、其響百雷ノ落下スルカ如ク、海底亦岩礁多キヲ以テ舟行ノ險甚ダシ、四國ハ其ノ南北ニ著キ變入アリ、其ノ北ナルヲ伊豫灣ト云ヒ其ノ南ナルヲ土佐灣ト云フ、傳ヘ云フ天武天皇ノ御宇震災ニヨリ陥没セシモノナリト。

(二) 本道ニ屬スル島嶼頗多ク、其ノ大半ハ瀬戸内海ニ存ス。讃岐ノ北東海上ニ小豆島アリ、東西四里餘、南北三里、周圍三十一里ニシテ、本道島嶼ノ最大ナルモノナリ、島

島嶼

中ニ星ヶ城山(二六八〇尺)アリ、又神懸ノ勝アリ紅葉ヲ以テ著ハル、本島ニ屬スル鹽島眞島アリ、小豆島ノ西方箱崎以東ニ當リ群島羅列スル處、鹽他本島(四里二十六町)、廣島(四里二十四丁)、粟島、志々島等アリ、伊豫梶取岬ノ北方ニ列ル幾多ノ島中最大ナルモノヲ大三島(周圍十五里)トス、大島(周圍十里五丁)之レニ次ク、大島ト伊豫本國ト接スル處海峽ヲナス來島海峽ト云フ、其西部ニ伊豫小富士ノ稱アル興居島六里二十四丁アリ、其附近ニ睦月島、忽那島(七里三十二丁)等羅列セリ、伊豫ノ西方九州ト相對スル處日振島(五里三十二丁)、戸島(四里三丁)アリ、土佐沿岸ニハ沖島アリ、其ノ他、鴨門海峽ノ西ニ大毛山(周圍五里十一町)アリ、紀伊ノ東南端ニ大島(四里半)アリ、由良海峽ニハ友島アリ。

(四) 四國ニハ四國山脈アリテ中國山脈ト並行シ、四國ノ中央ヲ東西ニ走リ諸川ヲシテ南北ニ分流セシム、此ノ山脈ノ東部ヲ讃岐山脈ト云ヒ、海ヲ踰エテ淡路ノ南部ヲ貫キ紀泉ノ境ヲ走リテ葛城、鈴鹿、諸山脈ト紀伊及大和ニ於テ交錯シ、幾多ノ嶮嶺ヲ崛起セシム。

紀伊ハ地勢甚峻峭ニシテ、殊ニ那智、大塔、熊野、諸山ノ如キ重疊タル連峯、吉野山ニ聯

リ鬱蒼タル樹林、晝尙暗キヲ覺ユ、大塔峯ハ紀伊山系ノ中央ニアリテ、紀伊第一ノ高峯、山趾延イテ十里ニ及ブ、那智山ハ其東南ニ位シ、雲取山其中間ニ峙ツ(三千三百三十尺)、那智瀑ハ那智山中ニ在リ、高四十丈、幅十八間、遠ク紀伊洋上ヨリ望メハ一條ノ白布ヲ懸クルカ如シ、西北ニ高野山アリ、山上金剛峯寺アリ、眞言宗ノ古刹ニシテ寺院總數七百餘、其ノ支院四百餘ケヲ有ス、弘法大師ノ開基ニ係レリ、紀伊富士ノ稱アル龍門山ハ其西ニアリ、四國ニ至レハ劔山ハ阿波ノ南部ニ峙チ、四國第二ノ高峰(六千百十二尺)ナリ、西北ニ祖谷山アリ、三傍示山ハ伊、土、阿、三國ノ境界ニアリ、阿讃ノ境ニハ大瀧山、雲邊寺山アリ、讃岐ノ西部ニハ象頭山アリ、琴平神社ヲ以テ名アリ、賽客踵ヲ接ス、四國唯一ノ高峯タル伊豫ノ石鎚山(六千二百七十二尺)ハ、國ノ中央部ニアリ、南境ニ三瀧山、別子山(五六二〇尺)アリ、土佐ノ中部ニ國見山、雪見山、駢列シ、其ノ脈所ニテ楠本山、五在所、森山等トナル、淡路ニ先山、柏原山等アレトモ皆二千尺ニ充タス。

(五) 本道ノ河流ハ紀伊川ヲ最トス、長サ四十七里、舟楫ノ便アルヲ三十二里、灌漑ノ利アリ、熊野川(ニニ新窓川)ハ長サ三十五里、流勢甚急ナリ、僅ニ舟筏ヲ通ス、此川ノ上

流ハ十津川ト稱シ、大和ヨリ來レリ北山川ヲ并セテ東南流シテ熊野灘ニ注グ。紀伊熊野兩河ノ間ニ有田(二十七里)、日高(三十一里)、富田(三十五里)、安宅(二十五里)ノ諸川アリ。

四國三郎ノ稱アル吉野川ハ、源ヲ四國中部ノ瓶森山ニ發シ、東流阿波ニ入り、伊豫ノ松尾川ヲ并セ國ノ北境ニ沿ヒ東向シテ海ニ入ル。全長四十一里餘、舟楫スルコト三十餘里、灌溉ノ便甚タ大ナリ。下流四派ニ分ル、本流ヲ廣戸川ト稱セリ。吉野川ノ河領ハ四國第一ノ平原ニシテ、地味肥沃、阿州藍ノ主産地タリ。

那賀川ハ源ヲ劍山ニ發シ、阿波ノ南部溪谷ヲ貫流シテ海ニ入ル、長程二十八里、運漕灌溉ノ便兩ナガラ利アリ。渡川一名ヲ四萬十川ト謂フ、土佐ノ西南部山間ニ發シ、伊豫ヨリ來レル吉野川ヲ併セ、中村ノ南ヲ過キテ海ニ入ル。其ノ他伊豫ニ重信川、及肱川アリ、共ニ十里ニシテ、土佐ニ仁淀(十九里)、物部(二十五里)ノ二川アリ。

### 第二節 人事誌

(七) 紀伊及四國東北部ハ、其氣質寛容ニシテ、唯阿波ハ稍伶俐ナリ。土佐及伊豫西部

習俗

生業

紀伊

ハ强健ニシテ、豪卓ノ風アリ。

民業ハ鯨獵、及讃岐ノ製鹽ヲ其特殊ナルモノトシ、他ハ概テ耕漁ニ從フ。

(八) 紀伊ノ和歌山市ハ和歌山縣廳ノ所在地ニシテ、紀伊河口ノ南岸ニアリ、三家ノ一ナル徳川侯五十五万石ノ城趾ニシテ、人口五万五千。大阪ヲ隔ツルコト十七里ニシテ、畿内、四國ノ要衝ニ當リ、市街頗繁榮ナリ、近時綿フランネルノ製出アリ。沙洲一帶海中ニ出デ、一小灣ヲ抱ク、名草山ソノ北方ニ在リ、之ヲ和歌浦トス、沙清ク水淺クシテ、棲鶴ノ蘆岸ニ起ツアリ、聖武帝嘗テ此ニ行幸シ給ヒ、明光浦ノ名ヲ賜ヘリトゾ。

(參照) 藤井竹外、明光浦ノ詩アリ曰ク、

絶妙好辭、懷赤人、潮生潮落已千春、我來欲問雌雄浪、丹頂仙禽立似人、

東岸ナル新宮ハ人口一万、市街繁榮ナリ、熊野川ノ河口ニアリ、熊野神社ノ所在地タル本宮ト、共ニ温泉場ニシテ浴客常ニ多シ。

其ノ他西岸ニ田邊、湯淺、黒江ノ諸港相連ル、紀伊川沿岸ノ粉川、橋西、皆斯國ノ名邑タリ。湯淺近傍有田川沿岸ハ密柑ノ名産地ニシテ、其産出巨額ニ上ル、黒江ハ漆器ヲ以

淡路

讃岐

テ著ハル。産物ノ主ナルモノハ甘藷、綿花、雲齋織、茶、硅板石、材木、蠟等トス。  
(九) 淡路島ハ内海ノ東方ヲ扼シ、北ハ明石海峡ニヨリテ播磨ト對シ、西南ハ鳴門海峡ニヨリテ讃岐ニ對ス、面積三十六方里、東岸ノ名邑ハ洲本、由良、志築ノ三港ニシテ、福良港ハ西岸ニ在リ、沿海漁利ニ富ミ、木綿、綿絲、伊賀野燒ヲ産ス。

(一〇) 高松市ハ讃岐ノ北岸ニアリ、運輸自在ナルヲ以テ盛榮ナリ、人口三万八千、香川縣廳ノ所在地ナリ、神戸ヲ去ル海上六十六哩、松平氏十二萬石ノ城趾タリ、高松ノ西方七里強ニアル丸龜ハ京極氏ノ城趾タリ、風光明媚、人口二萬、コレヨリ多度津ヲ經テ琴平ニ通スル鐵道十哩アリ、其ノ他志渡、津田、引田等ノ諸港アリ。  
産物ノ重ナルモノハ米、麥、甘蔗、煙草、紙、油、保多縞、及小豆島ノ醬油ニシテ、中、甘蔗最モ名アリ、其産出高本邦ニ冠タリ。

(參照)

- (一) 保元ノ亂、崇徳上皇戰敗レ、終ニ遷サレテ志度ニ幸シ給ヒ、尋テ此ニ崩シ給ヘリ、今ノ阿野郡海岸ナル松山ノ頂、即白峯ハ即其陵ナリト云フ。
- (二) 琴平神社ハ象頭山ノ山腹ニアリ、大己貴命、崇徳天皇ヲ奉祠ス、饗客跡ヲ絶々ス、殊ニ海員ヲ多シトス。

阿波

伊豫

(三) 壽永年間、平氏一ノ谷ニ敗レ逃レテ屋島ニ據ル、源義經直ニ舟師ヲ率キテ來リ追ル、平宗盛等乃安德天皇ヲ奉シテ復舟ニ上リ、大ニ海濱ニ戰フ、既ニシテ日晡ニ至ル、平氏一小舟ヲ出シ、扇ヲ竿頭ニ挿ミテ射ンヲ求ム、源氏ニ那須宗高ト云フアリ、一箭能ク扇數ヲ貫ク、世傳ヘテ美談トセリ、蓋屋島ハ高松ノ東方ニアル小山嘴ノミ。

(一一) 四國第一ノ都會タル阿波ノ徳島市ハ、人口六萬ニシテ吉野河口ニアリ、市況最モ繁榮ナリ、今ハ徳島縣廳ノ所在地ニシテ、峰須賀侯二十五萬七千石ノ城趾タリ、コレヨリ四里北方ニ撫養港アリ、人口一萬八千、吉野川ノ上流沿岸ナル池田、及東海岸ノ富岡、日和佐等皆名邑ナリ。

物産ハ徳島ノ縮緬、齋田鹽、及砂糖、麥、藍等ナリ。

(一二) 松山市ハ伊豫ノ西北部ニ在リ、久松氏十五萬石ノ城趾ニシテ、今愛媛縣廳ノ所在地ナリ、人口三萬五千アリ、松山ノ東一里弱ニ道後温泉アリ、古來著名ナリ、松山ノ西三津濱ニ至ル間ニ鐵道ノ便アリ。

宇和島ハ此國ノ西海岸ニアリ、人口一萬二千、伊達氏十萬石ノ城趾タリ、東海岸ノ今治ハ、内海ノ要津ニシテ市況繁榮ナリ、人口一萬餘、此ノ外西條、小州、吉原ノ諸邑アリ、物産ハ銅、アンチモニ、甘藷、牛、白蠟、干海老、松山縞、竹細工等ナリ。

(一三) 土佐ノ高知市ハ國ノ中央部ニ位シ、水陸運搬ノ便ニ富ム、人口三萬三千、山内侯二十四萬二千石ノ城趾タリシ所ニシテ、高知縣廳ノ所在地タリ、神戸ヲ去ル海上百四十二湮ニアリ。其ノ他、安藝、赤岡、高岡、須崎等皆名邑ナリ。物産ハ鯨、鯨、珊瑚、蠟石、茶硯材、紙、樟腦等ニシテ、紙ノ産額尤モ多シ。

(參照) 再掲

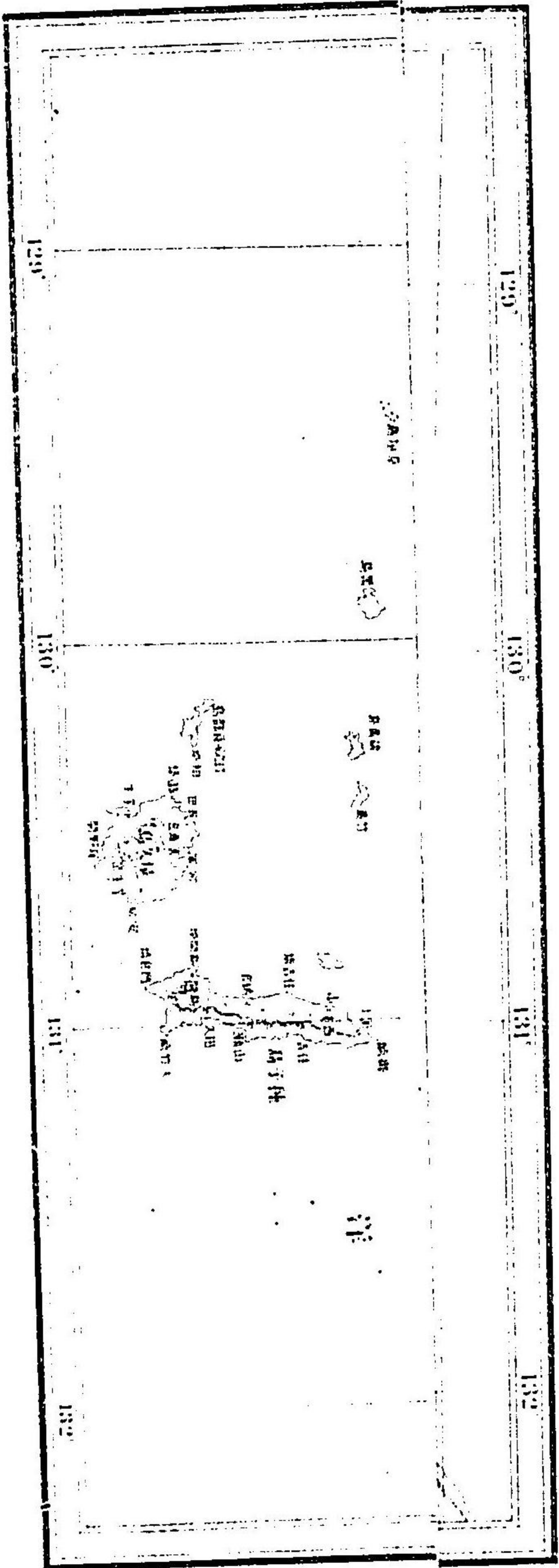
北條氏既ニ源氏ヲ亡ホシテ、驕僭益甚シク、義時泰時心ヲ協セテ、屢朝廷ヲ凌辱セリ。後鳥羽、土御門、順徳ノ三上皇、即承久三年ヲ以テ院宣ヲ諸國ニ下シテ、勤王ノ師ヲ募リ給ヘリ。義時之ヲ聞キ、兵十九萬ヲ發シテ、直チニ京師ニ攻メ、登ラシメシカバ、官軍支フルコト能ハス。終ニ大ニ敗レタリ、上皇再院宣ヲ下シテ、北條氏ノ心ヲ釋カントセラレシモ、義時之ヲ奉セズ、仲恭天皇ヲ廢シ、三上皇ヲ隱岐、四國、佐波ニ遷シ奉レリ。實ニ前古未聞ノ暴逆ナリト謂フベシ。

後鳥羽上皇(中院ト申ス、隱岐ニ在セルコト十九年)  
我こそは新島守、澳の海のあらし波風心してふけ

土御門上皇(中院ト申ス、土佐及阿波ニ在セルコト十一年)

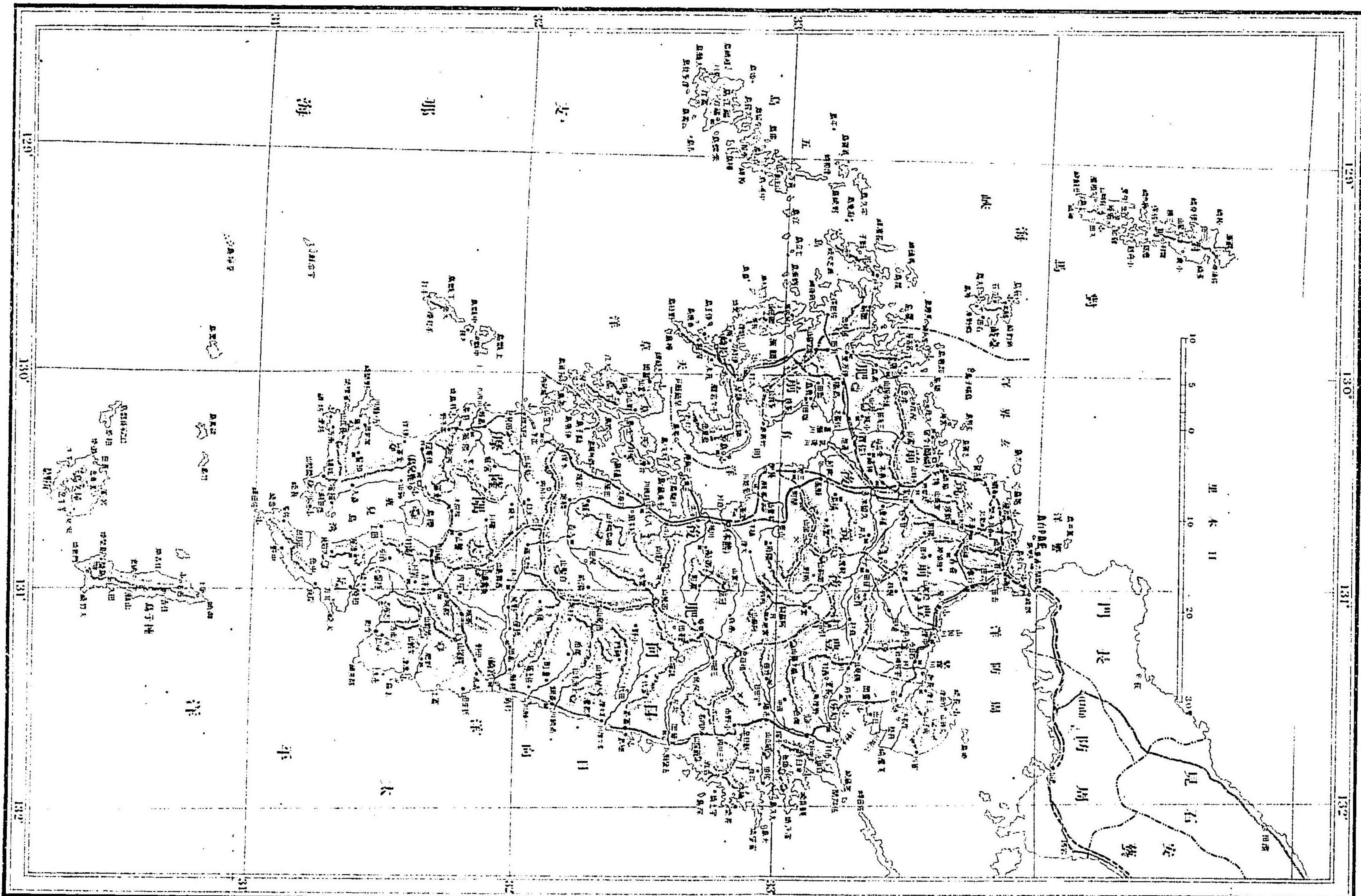
浦々によする白浪、こさくはんさきのこさくを聞かまほしけれ

順徳上皇(新院ト申ス、佐波ニ在セルコト廿二年)



土佐國圖

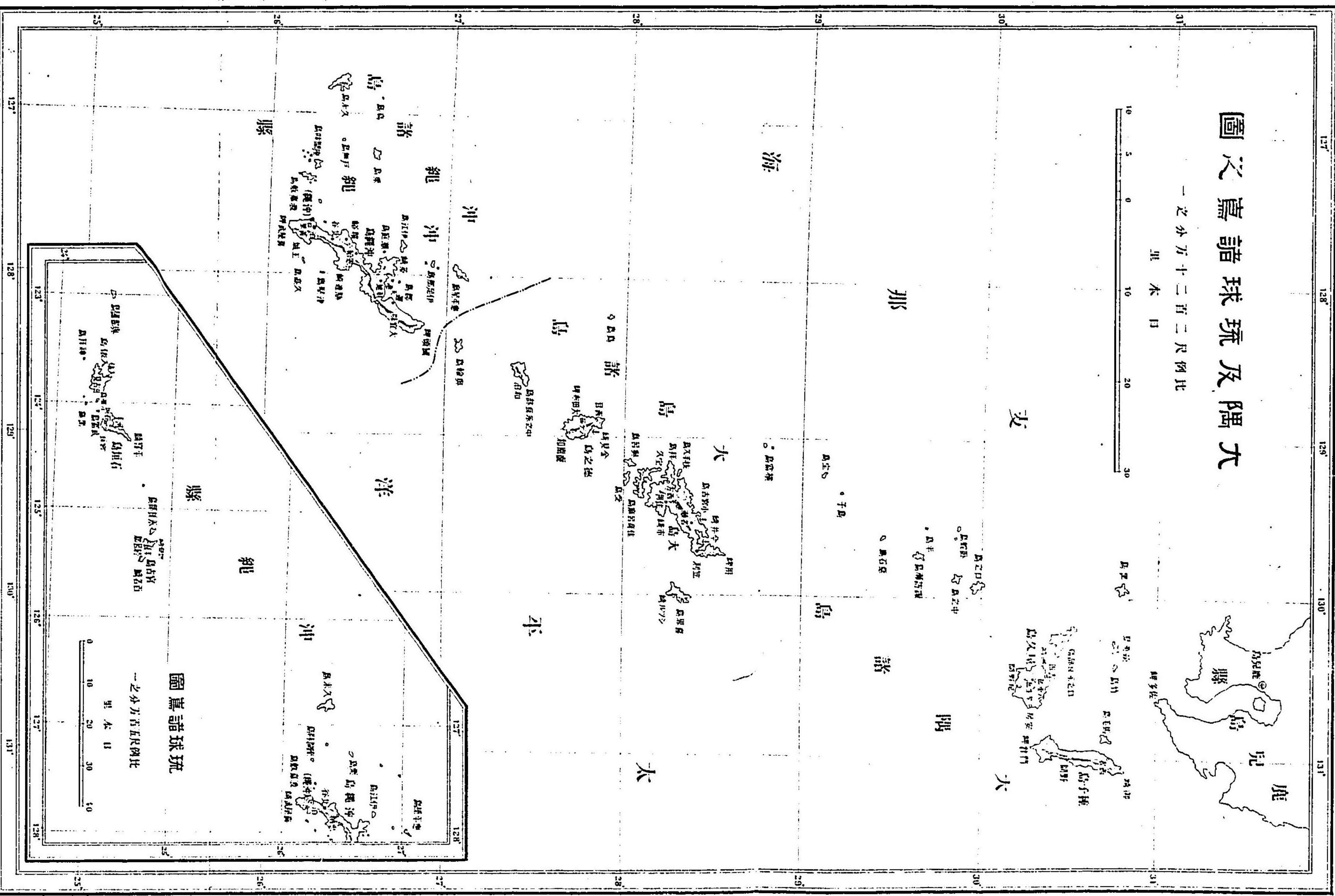




福岡縣佐賀縣長崎縣大分縣熊本縣宮崎縣鹿兒島縣

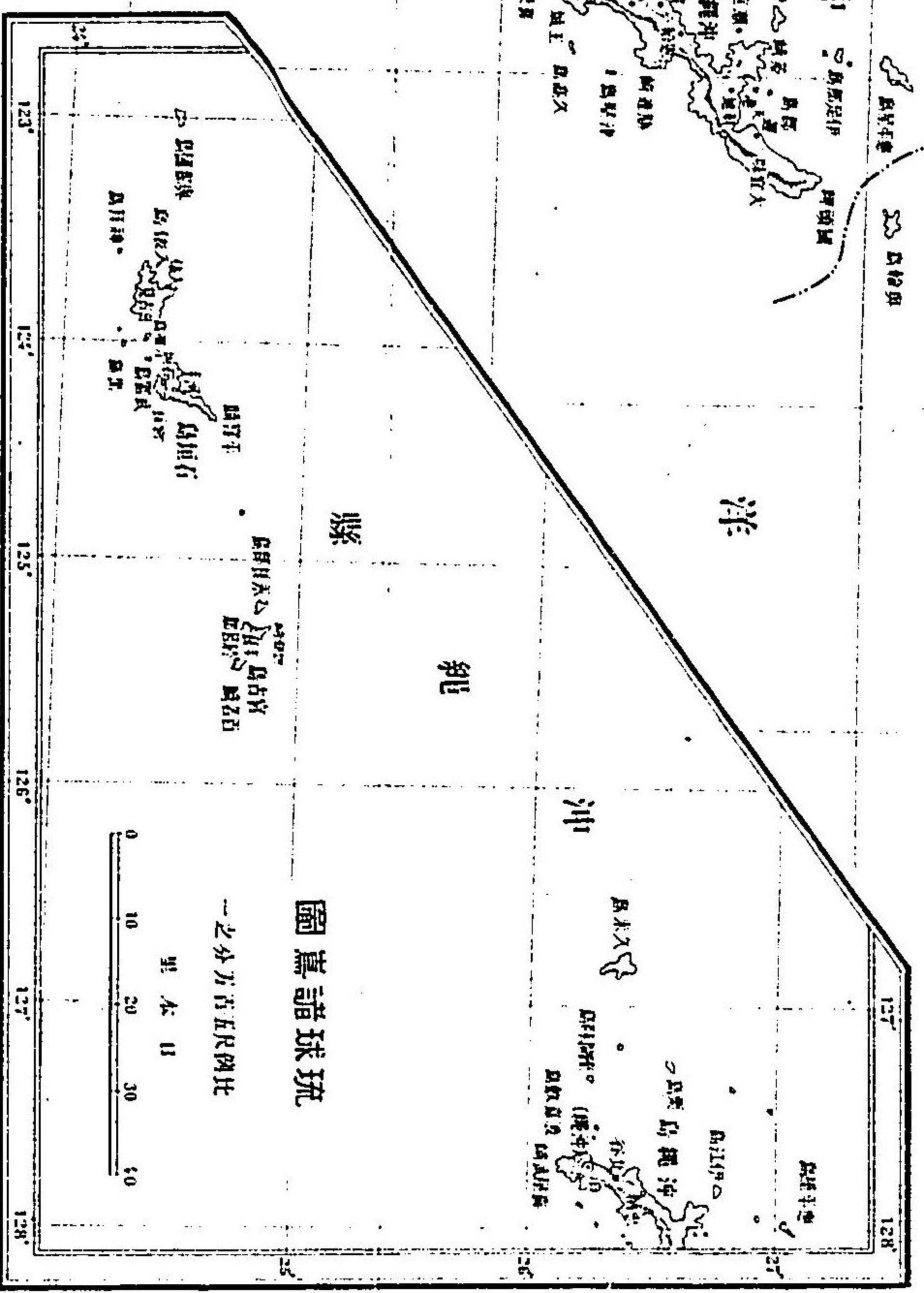
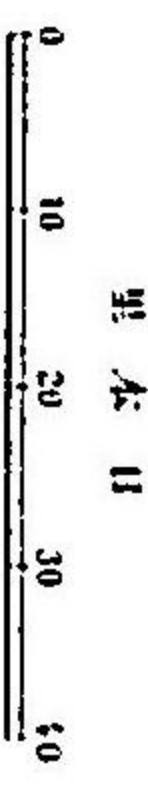
# 圖之島譜琉及隅大

一之分方十二百二尺例比  
里 水 日



## 圖島譜琉

一之分方五尺例比  
里 水 日



なからへてたさへば末に歸ることも憂はこの世の都なりけり

## 第八章 西海道誌

### 第一節 成云及總貌

成立

(一) 本邦ノ西南ニ横ハレル群島ノ總稱ニシテ、東ハ四國ニ對シ、北ハ門司、赤間關ノ海峽ヲ隔テ、中國地方ニ對シ、西北斜メニ朝鮮半島ニ對セリ。其面積二千八百二十七方里ニシテ、對馬ノ北端ヨリ琉球南端迄ヲ算定セハ殆ント四百餘里ニ互ル。人口六百三十二萬六千九百五人ニシテ、之ヲ一方里ニ配スレハ二千二百三十八人餘ナリ。氣候ハ概シテ温暖ナレドモ、北部ハ南ニ山ヲ負ヒ、北ハ海ニ面スルヲ以テ冬季ノ較寒冷ナリ。就中薩隅ノ炎熱殊ニ甚シク雨量亦多シ。本道ヲ豊前、豊後、筑前、筑後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、隱岐、對馬ノ十一國、及琉球群島ニ分チ、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、鹿兒島、宮崎、沖繩ノ八縣之ヲ分轄ス。

(參照)

筑前(舊名筑紫)十五郡

西海道、成立

糟谷、宗像、糠手、嘉麻、穂波、上坐、下坐、夜須、那珂、御笠、席田、怡土、志摩、早良、遠賀、後(全上)十郡

御井、御原、山本、三瀬、上斐、下斐、生葉、竹野、山門、三池、

豊前(舊名豊)八郡

企救、田川、京都、仲津、筑城、上毛、下毛、宇佐、

豊後(全上)十郡

西國東、東國東、通見、大分、北海部、南海部、大野、直入、玖珠、日田、

肥前(舊名火)十六郡

四彼杵、東彼杵、北高來、南高來、北松浦、南松浦、佐賀、神崎、基肆、養文、三根、小城、東松浦、西松浦、杵島、藤津、

肥後(全上)十五郡

飽田、託摩、宇土、玉名、山鹿、山本、菊池、合志、阿蘇、上益城、下益城、八代、葦土、球磨、天草、日向(舊名豊)十郡

宮崎、北那珂、南那珂、北諸縣、西諸縣、東諸縣、南諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵、

大隅(全上)十郡

薩刈、始良、桑原、西嘴、肝付、南大隅、北大隅、熊毛、取調、大島、

薩摩(全上)十四郡

鹿兒島、谷山、給黎、揖宿、願娃、川邊、日置、阿多、高城、南伊佐、薩摩、飯島、出水、北伊佐、

壹岐(舊名伊伎)二郡

壹岐、石田、

對馬(舊名津島)二郡

上縣、下縣、

琉球(大小五十五島)

西海道

(二)九州ノ地勢ノ沿岸屈曲ニ富ミ西海岸殊ニ甚シク、肥前ヲ以テソノ最タルモノトス。九州ニハ半島ヲナセルモノ四個アリ、曰ク肥前半島、曰ク薩摩半島、曰ク大隅半島、曰ク國東半島是レナリ。國東半島ハ豊島ノ東北端ニ突出シ、薩摩大隅兩半島ハ九州南部ニ並出セリ其間ヲ鹿兒嶋灣ト云フ、灣内ニ櫻島アリ著名ノ噴火山タリ、霧島火山脈ニ屬ス、此等諸半島ハ其沿岸ノ出入多カラスト雖、獨リ肥前半島ノミハ全ク之ト相反セリ、即チソノ南部更ニ彼杵島原ノ二半嶋ヲ成ス、彼杵半島ハ西北ニ折レテ大村灣ヲ抱キ、島原半島ハ肥後宇土ノ小半島ト相對シテ筑紫灣ヲ成セリ、半島ノ南早崎海峽ヲ隔テ、天草島ニ對ス、其ノ東方ハ即チ天草灘ナリ、更ニ肥前ノ西北

ヲ望メバ北松浦郡ノ半島アリテ、平戸海峽ヲ隔テ平戸島ト對ス。  
 (三) 本道沿岸ハ島嶼ニ富ム、北方肥前海上ニ在ル壹岐ハ、本道ノ一國ヲ成スモノニシテ、周圍三十五里、郷ノ浦、勝本ハ其ノ名邑ナリ、鯨、鱒、鮭、海參等ヲ産ス。是ヨリ北十里對馬海峽ヲ隔テ對馬島アリ、亦本道ノ一國ニシテ南北兩島ニ分レ南ヲ上島、北ヲ下島トシ、兩島ノ間ヲ淺茅浦ト稱ス、灣口西ニ開キ水甚深シテ數十ノ巨艦ヲ容ルベシ我カ國西北海防ノ要港ナル竹敷港ハ其ノ南岸ニアリ、上島ハ周圍五十里、嚴原其ノ東岸ニアリ、宗氏ノ城地ニシテ山ヲ負ヒ灣ニ面シ、全島第一ノ都會ニシテ船舶ノ出入頻繁ナリ、下島ハ周圍百三十六里、其北端ニ鰐浦アリ、海上十五里ヲ隔テ、朝鮮釜山浦ト相對セリ、此ノ間ヲ朝鮮海峽ト云フ、對馬ノ物産ハ畧壹岐ニ同シ、肥前ノ西部平戸海峽ヲ越エテ平戸島アリ、周圍四十三里、其ノ西南ニ五島アリ、福江、中通、久賀、奈留、宇久是ナリ、福江ハ周圍六十里餘、中通ハ六十二里餘、大村灣口ニ針尾島アリ、天草島ハ肥後ノ西南ニアリテ、上下二島ニ分ル、上島ハ周圍三十七里、下島ハ周圍七十餘里、屬島亦多シ。

(全照)

徳川家光ノ時耶蘇教ヲ禁スルコト甚嚴ニシテ、外人ヲ逐ヒ信徒ヲ罰セシカバ、薩摩忠太夫、森宗意等相謀リテ、天草ノ益田四郎時貞ヲ推シテ兵ヲ天草ニ舉ゲ、板倉重昌之ヲ討シ、捷々ズレテ死セリ、松平信綱代リテ之ヲ討滅セシガ、是ヨリ外教ヲ禁スルコト益顯ナルニ至レリ、實ニ寛永十四五年ノ交ナリキ。

天草島ノ南ニ長島アリ、周圍二十二里、又薩摩ノ西方ニ上、中、下ノ甌島アリ、上甌島ハ周圍十七里、中甌島ハ四里、下甌島ハ二十里アリ、長島及甌島ハ共ニ薩摩ニ屬シ、鹿兒島灣内ニアル櫻島ハ大隅ノ屬島ニシテ、周圍十里、大根ヲ産ス、薩摩ノ南端開聞岬ノ南十里ノ海上ニ硫黃島アリ、硫黃ヲ産スルヲ以テ名アリ、其西ニ黒島、其ノ東ニ竹島アリ、種子ヶ島ハ大隅ノ南端佐多岬ノ東南ニ在リ、周圍三十八里、天文年中葡萄牙人ノ始メテ島銃ヲ傳ヘシ所ナリ、其ノ西南ニ屋久島アリ、周圍十六里、其ノ西ニ口之永良部島アリ、其ノ他大島、徳之島、喜界ヶ島等無數ノ島嶼アリ、大島最大ニシテ周圍約六十里、薩摩南端ヲ距ル八十里、其習俗言語琉球ニ類セリ。  
 琉球ハ大小五十餘島ヨリ成リ、沖繩、宮古、石垣、及入表ノ四島尤モ大ナリ、沖繩島延長四十里、全島ヲ三區ニ分チ、北部ヲ國頭、中部ヲ中頭、南部ヲ島尻ト稱ス、中頭、及島尻ノ二區ハ平垣廣濶ノ處多キモ、北部國頭ハ山脈連亘セリ、人口ノ稠密ナルハ中頭及島

山嶽

尻ニシテ、島尻ノ西南ニハ本島第一ノ都邑タル那覇港アリ、沖繩縣廳ノ所在地タリ。此ノ地ヲ東ニ距ルコト一里許ニシテ首里アリ、舊藩主尙氏ノ城址ニシテ、今ヤ第六師團ノ分營アリ。本島東北隅ニ與那覇港アリ、西北ニハ運天港アリ、物産ハ甘藷、及甘蔗ヲ最トシ、泡盛酒、飛白塙、芭蕉布、漆器等亦名アリ、沿岸ハ漁鹽ニ富ム。宮古島ハ沖繩ノ南六十六里許ニアリ、島中牧畜ヲ業トス、耕種紡織モ亦盛ニ行ハル、石垣島ハ宮古島ヲ去ル二十六里ニアリ、島ノ西南ハ原野平遠、地味肥沃、頗ル禾穀ニ適ス。此ノ島ノ西六里ニ入表アリ、沿岸壁立シテ良港ニ乏シク、島中深林鬱蒼トシテ地味頗豊饒ナレトモ概荒蕪ニ委セリ、更ニ西十五里ニシテ與那國、南七里ニシテ波照間アリ。

(四) 本道ノ山岳ハ筑前ノ中央ニ寶滿山アリ、又御笠山トモ稱ス、高サ三〇〇〇尺、筑後ノ東境ニ御前嶽、豊後ノ所謂權現岳アリ、中央ニ高良山カウラアリ、英彦山ヒコ彦山トモ云フ、高サ三千三百六十尺ハ兩豊及筑前ニ跨ル、九州第一ノ高山タル豊後ノ由布嶽ハ大分灣頭ナル別府港ノ西ニ聳ヘ、高サ六千五百七十尺、豊後富士ノ稱アリ、鶴見山ハ其東北ニ在リ、高サ五千二百四十尺、國東半島ニ文珠フミ二〇五〇尺、兩子フタゴ二四七〇尺ノ諸山アリ、豊後ノ西部ニ黒岳クニ五三四九尺アリ、其ノ西ニ大船オホフネ六〇〇〇尺、九重クニ六一五〇

尺アリ、更ニ北方ニアタリテ湧蓋山ユウガイ五〇七〇尺アリ、此ノ近傍ノ群山ハ大概六千尺内外ニシテ皆九重山彙ニ屬シ、肥後ノ境ニ沿ウテ南走シ九州南部山脈ノ北端ニ接ス。此ノ山脈ハ四國山脈ニ連ルモノニシテ、豊後ノ東岸蒲戸崎ノ邊ヨリ起リ西南ニ走リテ日肥、薩隅ノ境界ヲナシ、東西諸川ノ分水界トナル、之ニ屬スルモノハ豊後ノ南境ニ朝日岳、傾山カサ五二八〇尺、祖母ヶ岳ハハ五七七八尺アリ、肥後ニ入リテ阿蘇ヲ起ス、阿蘇ハ古來著名ノ活火山ニシテ、五峯ハ參差空際ニ聳エ、其ノ最モ高キモノヲ高峰カミ(六二五〇尺)トス、其ノ南ノ日肥ノ境ニ於テ國見クニミ(三二五〇)、江代エ(五五〇〇)、市房イチヒラ(六一四〇)等ヲ起シ、日隅ノ境上ナル霧島ニ至ル。霧島山ハ東西ニ分レ、睡眠火山ニシテ不時ニ轟然煙火ヲ飛ハス、高サ五千五百三十尺ナリ、日向ノ東海岸ヲ走ル小松山系ニハ鰐塚山カマ(三四六五尺)、小松山コマ(三六〇〇尺)、鈴岳スズ(二七九〇尺)等アリ、大隅ニハ白鹿山、七ツ岳、烏帽子岳、正月岳カ(三〇三六尺)アリ、對岸薩摩南端ニ開聞岳アリ、其ノ中部ニ金峯山カミ(二六〇七尺)、及北部ニ國見山、紫尾山ムラサキ(四七八五尺)等アリ、其ノ他屋久島ノ宮ノ浦岳ハ本道第二ノ高山ニシテ霧島山脈ニ屬シ、高サ六千三百七十尺ヲ有ス、櫻島ノ櫻島岳ハ有名ナル活火山ニシテ、三千七百二十六尺アリ、本道ノ西北、筑前、肥前ノ境上ニハ

肥前山脈ニ屬スル基山、背振山、雷山(三三〇〇)浮岳等アリテ、之ヨリ南折シテ肥前ノ中央ヲ過キ、黒髮、虚空藏トナリ、大村ノ東北ナル多良岳、及島原半島ノ温泉岳(五〇〇〇)ヲ起ス。

(五)本道ノ川流中其主位ヲ占ムルモノヲ筑後川、及川内川トス。筑後川ハ俗ニ呼ンテ筑紫三郎ト曰フ、上流ヲ千年川ト稱シ、水源二個アリ、一ハ豊後ニシテ、一ハ肥後ニアリ、相會シテ二筑ノ境ヲ經テ肥前筑後ノ境ヨリ海ニ入ル。流程三十五里、舟楫ノ便二十八里、幅六町ニ及ブ。昔南北兩朝ノ亂、西海ノ名士菊池武光ノ激戰セシ所タリ。

(參照) 頼山陽筑後河ヲ下ル詩中ノ句ニ曰ク、

居民何記正平際、行客長思已亥歲、當時國賊擅鷓鴣、七道詔風助豺狼、勤王諸將前後沒、四陲僅存臣武光、遠詔哀痛猶在耳、擁護龍種同生死、大學來犯彼何人、誓剪滅之報天子、

川内川ハ源ヲ日向ノ西部ニ發シ、大隅ノ北部ヲ過キテ薩摩ニ入り、西流シテ京泊ニ至リ海ニ入ル。水源ヨリ算スレハ延長四十六里ニシテ、幅百間、舟利十六里。大野川ハ豊後ニアリ、源ヲ豊後ノ西境ナル九重山ノ溪谷ニ發シ、北東流シ國ノ中部ヲ横斷シテ別府灣ニ注ク。流程三十四里、瀨域極メテ廣シ。

日向瀨ニ注ク四個ノ長流アリ、曰ク五箇瀨、曰ク美々津、曰ク一ノ瀨、曰ク大淀、五箇瀨川ハ流程三十餘里、美々津川二十八里、一ノ瀨川三十里、大淀川二十五里、共ニ日向ノ西境ニ發源ス。

球磨川ハ肥後ノ東境ニ發源シ、長流二十四里、八代灣ニ注ク、有名ナル急流ニシテ富士、最上ノ二川ト共ニ本邦三急流ノ一ト稱セラレ、其ノ他肥後ノ東境ニ發源シ西流シテ島原灣ニ入ルモノヲ、菊池川(十九里)、白川(十五里)、綠川(廿一里)等トス。

豊前ノ中央ヲ北流スル山國川ハ、流程十三里ノ小川ニ過キサレモ、其上流頗奇勝ニ富ムヲ以テ世ニ著ハル、是即有名ナル耶馬溪ナリ。

(參照) 耶馬溪原名ヲ山谷ト謂フ、山國川ノ上流英彦山麓ノ溪谷ニアリ。山陽傳テ茲ニ遊ヒ、激賞措カス耶馬溪ト雅馴シ江湖ニ紹介セリ、其詩ニ曰、

純石爲峯勢欲飛、峯頭更戴幾層巖、四州東盡無多獲、獲此天然黃大纒、

筑前ノ北部ニ遠賀川アリ、流程十五里、上流ヲ嘉麻川ト云フ、舟楫ヲ通スルヲ十里、瀧漑ニ富ム、筑後ニハ矢部川アリ、流程十五里。

(六)本道ノ湖沼ハ周圍三里以上ノモノ僅ニ二個アルノミ、一ハ筑前ノ北部ニ在ル

鴨生田池ニシテ(周圍五里)他ハ薩摩ノ南ニアル池田湖ナリ(周圍四里二十九町深百五十俵)

### 第二節 人事誌

習俗  
生業

(七) 本道ハ皇祖ノ肇メテ降臨シ給ヒシ地ナリ、人情慨直實ナルヲ以テ保守ニ傾クコト多ク、勇敢能ク事ニ當ル、只西部肥前ノ地ノミ、古來外人ニ接近スルコト多カリシヲ以テ、舉止活潑ニシテ且伶俐ナリ、民業ハ山地及平原ニ於テ農事ヲ勤メ、沿岸ノ地多ク商工ノ業ニ從フ、壹岐、五島近傍ニ於テハ、鯨獵最盛ナリ。

筑前

(八) 福岡市 筑前博多灣頭ニ在リ、東那珂川ヲ隔テ、博多市ニ接續シ、市街繁榮人口五萬五千餘、水陸運搬ノ便ニ富ム、黒田侯五十二萬石ノ城址ニシテ、福岡縣廳ノ所在地タリ、福岡ト接續セル博多ハ、博多織ノ產地ニシテ商況甚々盛ンナリ、亦風光ニ富ム。  
大宰府ハ管公ヲ奉祀セル天滿宮所在ノ地ニシテ、福岡ノ東南五里ニ在リ、宮ハ規模宏大ニシテ殊ニ梅花ヲ以テ著ハル、中ニ飛梅ト稱スルモノ今猶存ス。

### (參照)

(一) 文永年間、蒙古ノ族俄ニ物興シ、國號ヲ元ト稱シテ支那全國ヲ併呑シ、戰艦九百艘ヲ率井テ、對馬、壹岐ヲ攻畧シ、進ミテ筑前ニ迫リ來リ、少貳經資、九州ノ諸侯ヲ統帥シテ防キ戰ヒシガ、一夜暴風雨ニ會シ、敵艦大ニ碎ケ、敵兵皆溺レ、生還セルモノ甚少ナカリキ、是文永十一年十月二十日ノ事ナリ。

後元主遺恨ニ堪ヘズ、屢使ヲ遣ハシ、モ、時ノ執權北條時宗、其國書ノ無禮ヲ憤リテ之ヲ斬リ、益西海ノ防禦ヲ嚴ニセリ、元猶使ヲ遣ハシ、コト數回ニ及ビシモ、或ハ之ヲ卻ケ、或ハ之ヲ殺シ、一モ返際スルコトナカリキ、弘安四年五月、元將范文虎、戰艦四千艘ヲ帥井テ、再筑前ノ近海ニ寇シ、又我ガ將師大矢野十郎、河野通有等防戰最力メ、屢敵軍ヲ苦シム、敵艦一先沖ニ引退キシカ、七月晦日ノ夜、半暴風俄ニ起リ、敵艦悉ク破碎シテ又隻影ヲ留メザリキ、會殘餘ノ敗兵肥前ノ鷹島ニアリテ、僅ニ破船ヲ繕ヒシカ是亦少貳經資ニ認メラレテ殺サレタリ、此ノ時生還シ得シモノ僅ニ三人ニ過キサリキトシ、世ニ傳フ、時ノ上皇龜山院、殊ニ宸襟ヲ憫マサセ給ヒ、御身ヲ以テ國難ニ代ヘ給フヘキヨシ、大神宮ヘ御書ヲ奉リタリトナン。

(二) 延喜帝ノ世、右大臣菅原道真、罪ナクシテ大宰府ニ謫セラレシ時、庭前ノ梅樹ニ名殘ノ惜マレテケレシ。



東風吹かばにほひをこせよ梅の花主なしとて春なわすれそ  
道真配所ニアリ、常ニ其君ヲ思ヒ奉リ、涼秋月明カナル夕、一詩ヲ題シテ志ヲ述ヘタ

去年今夜侍清涼、秋思詩驚獨斷腸、恩賜御衣今在此、捧持毎日拜餘香。

筑前ノ名邑ニハ箱崎、秋月、甘木、蘆屋等アリ。箱崎ハ箱崎神社ヲ以テ名アリ、社ハ官幣  
中社ニシテ、天平寶字三年ノ創建ニ係レリ、昔ハ龜山帝紺紙金字ニテ敵國降伏ノ四  
字ヲ書シ、神前ニ捧ゲ玉ヒシトカ、蘆屋港ハ遠賀河口ニ在リ、神武帝東征シ給ヒシ時  
駐紮アリシ所ニシテ、後豊臣秀吉朝鮮征伐ノ際、艦裝セシ所ナリ。  
筑前ノ産物ハ烟草、牛、馬、石炭、生蠟、蠟燭等ニシテ、石炭ハ産額ノ多キト、鯛ハ其鮮美  
ナルトヲ以テ名アリ。

(九) 筑後ノ久留米市ハ筑後川ノ沿岸ナル平野ニ在リ、有馬氏二十一萬石ノ城趾ニ  
シテ、人口ニ萬餘、市街盛榮ナリ、久留米積ヲ産ス。  
久留米ニ次テ柳川アリ、國ノ西部ニ位シ、立花氏十二萬石ノ城趾ニシテ、人口三千、其  
ノ他瀬高、榎津、吉井等アリ、物産ハ藍、紙、油、蘭、蕪、生蠟、石炭等ヲ最トス。

(一〇) 豊前小倉ハ本道ヨリ中國ニ渡ル要衝ニ當リ、馬關ト相距ル僅カニ五里ニ過  
キス、小笠原氏十五萬石ノ城趾ニシテ、人口一萬五千、市況頗盛ナリ、門司、小倉ノ東  
北海岸ニアリ、馬關ト相對シテ瀬戸内海ノ航路ヲ扼ス、港内水深クシテ大船ヲ入ル  
ベシ、往昔三韓入貢ノ際毎ニ寄港セシ所ナリ、舊名ヲ文字ケ關ト謂フ、今ヤ築港ノ計  
畫アリ。

中津ハ奥平氏十五萬石ノ城趾ニシテ、山國川ノ右岸ニ枕ム、人口一萬七千、宇佐ハ國  
ノ東部ニ在リ、八幡宮ヲ以テ史上ニ名アリ、元明帝和銅五年ニ創建セラレ、神殿莊嚴  
九州第一ノ大社ニシテ現ニ官幣大社タリ。

(參照) 稱徳帝ノ朝、倭僧道鏡ト云フモノ、太政大臣ニ上リテ政ヲ專ニセリ、宇佐八幡ノ神  
主阿曾磨ト云フモノ奏シテ曰ク、道鏡ヲシテ天位ニ即カシメバ天下太平ナラント、帝  
和氣清磨ヲシテ再神諭ヲ乞ハシム。清磨發スルニ臨ミ、道鏡甘言強辭之ヲ誘フ、已ニシ  
テ清磨還リ奏シテ曰ク、神敎ニ我朝ノ天日嗣ハ必ス皇統ヲ立ツベシ、道鏡何者ソ、敢テ  
天位ヲ窺寄スル宜シク速ニ誅除スヘシト。道鏡大ニ怒リ、清磨ノ官ヲ奪ヒ、名ヲ穢磨ト  
號ケテ、之ヲ大隅ニ流セリ。山陽賦シテ曰ク、

和氣清、改清爲穢、不損清、清氣滄滄、蓋天地、獲得赤日、天中明、臣舌可拔、臣舌不可、風三寸

舌萬古日、

豊後

肥前

長州、大橋、羽島、皆此ノ國ノ名邑ナリ、物産ハ石炭、硯材、門司硯、魚貝、紙、油等ナリ。

(一一) 豊後ノ大分ハ大分灣頭ニ在リ、大分縣廳ノ所在地ニシテ鑄物ヲ以テ有名ナリ、人口一萬四千、大分ノ東南地蔵崎ヲ廻レハ臼杵アリ、人口一萬一千餘、別府ハ有名ナル温泉、湯ニシテ浴客常ニ充滿セリ、杵築、日出、鶴崎、守江、佐伯等皆名邑ナリ、産物ハ牛、馬、錫、線、罌、大理石、鱒、及大分ノ鍋釜、壘表、豊後紋等ニシテ、壘表最盛名アリ。

(一二) 肥前ノ長崎市ハ本邦五港ノ一ニシテ、我國最舊ノ開港場タリ、後陽成帝ノ慶長十六年ニ開始シテ今日ニ至レリ、人口四萬五千、位置經歷共ニ名港タルニ恥ヂズ、佐賀市ハ鍋島侯三十五萬石ノ城趾ニシテ、肥前東北ノ平野ニ在リ、人口二萬五千、市况繁榮ナリ。

西海ノ鎮守府タル佐世保ハ長崎ノ北方大村灣口ノ北部ニアリ、港内深クシテ廣シ、島原ハ有明灘ニ臨ム、其ノ他諫草、大村、有田、伊萬里、唐津、平戸、福江、富江等ノ諸邑アリ、温泉カ嶽ノ湯ハ其名遠近ニ聞ユ、物産ハ有田、伊萬里ノ陶器、及唐津、高島ノ石炭共ニ本邦ニ冠タリ、煙草、米、麥、鯨、鰻、鳥賊、及海草類、樟腦、素麵等之ニ次ク。

肥後

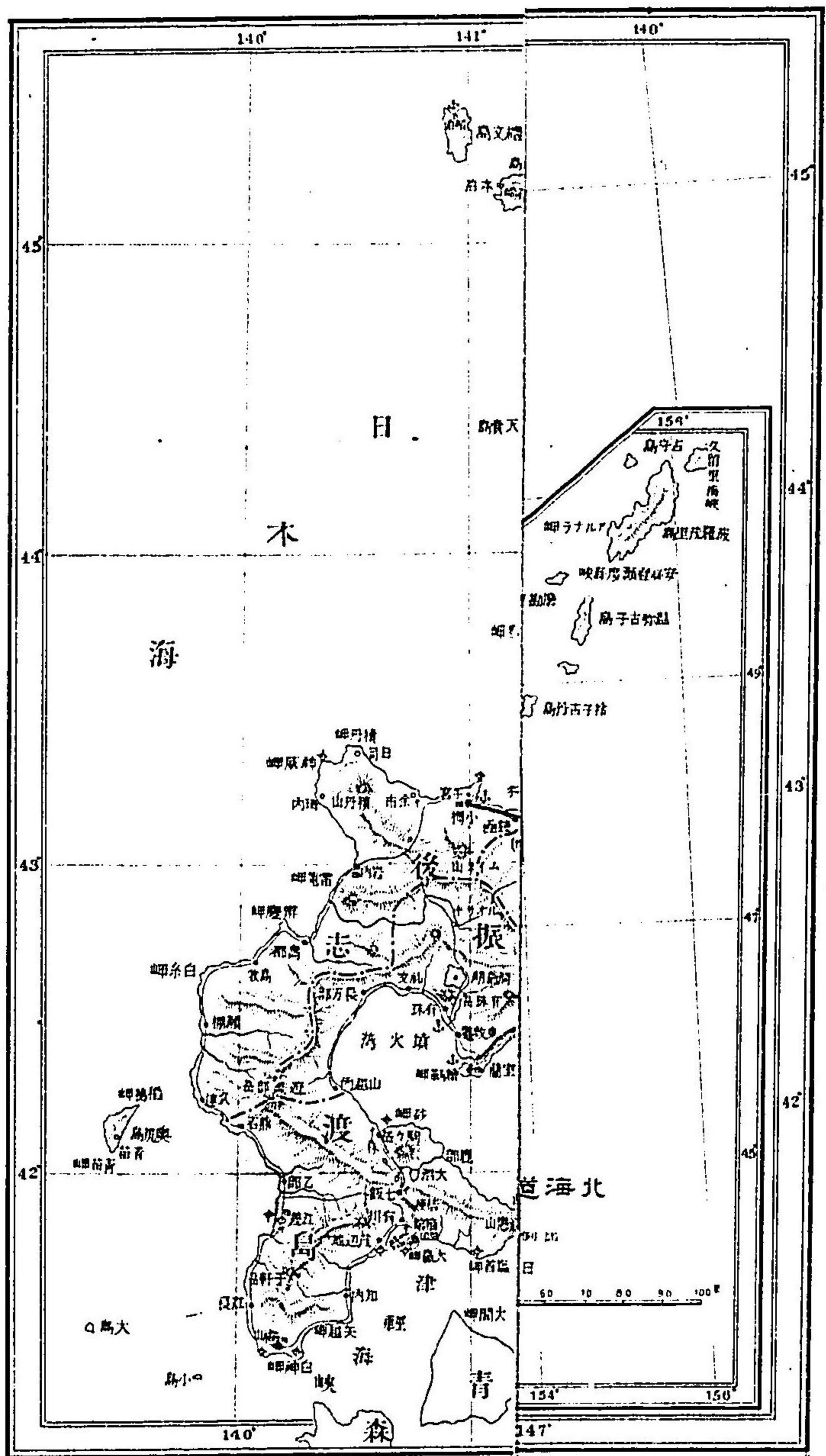
日向

(一三) 城廓ノ宏壯ナルヲ以テ有名ナル肥後ノ熊本市ハ、細川侯五十四萬石ノ城趾ニシテ、明治十年ノ變亂ニ當リ市街大半兵燹ニ罹リシモ、今ヤ再ヒ昔時ノ盛況ニ復シ、人口五萬五千、寶ニ鎮西ノ大都會タリ、熊本縣廳、及第六師團ノ兵營アリ、本城ハ恰モ市ノ中央ニ位シ、名將加藤清正ノ築キシ所ナリ、其ノ他山鹿、川尻、人吉、隈府、三角等ノ名邑アリ、熊本ハ菊池、武光ノ城趾タリ、此ノ國温泉頗多ク其數二十ヲ過グ、時ニ最モ盛名アルヲ阿蘇、山家ノ二湯トス。

物産ハ農産物ヲ主トシ、米、麥、大豆、甘藷等ニシテ、天草島ノ虎硯、砥石、八代ノ壘表、熊本ノ綿布等之ニ次ク。

(一四) 日向ノ宮崎ハ宮崎縣廳ノ所在地ニシテ大淀川ノ下流ニアリ、人口八千餘、都ノ城ハ日向ノ南部ニシテ、大隅ニ通スル要路ニ當ル、人口一萬、高千穂ノ宮趾アリ、是天祖ノ居住シ玉ヒシ所、帝國人民ノ記憶スヘキモノナリ。

(參照) 豊々杵尊ノ創メテ降臨マシマシ、時、日向ノ高千穂ニ宮造シ給ヒシヨリ以後、四世間茲ニ居ラレシガ、神武天皇ニ至リ、終ニ都ヲ東國ニ遷サセ給ヘリ、高千穂ハ即チ今ノ都ノ城ナリ。



五箇瀬川ニ添ウテ延岡アリ、人口一萬其ノ他細島、佐土原、美々津、高鍋等ノ諸邑アリ  
物産ハ甘藷、麻、茶、烟草、樟腦、日向半紙等最名アリ。

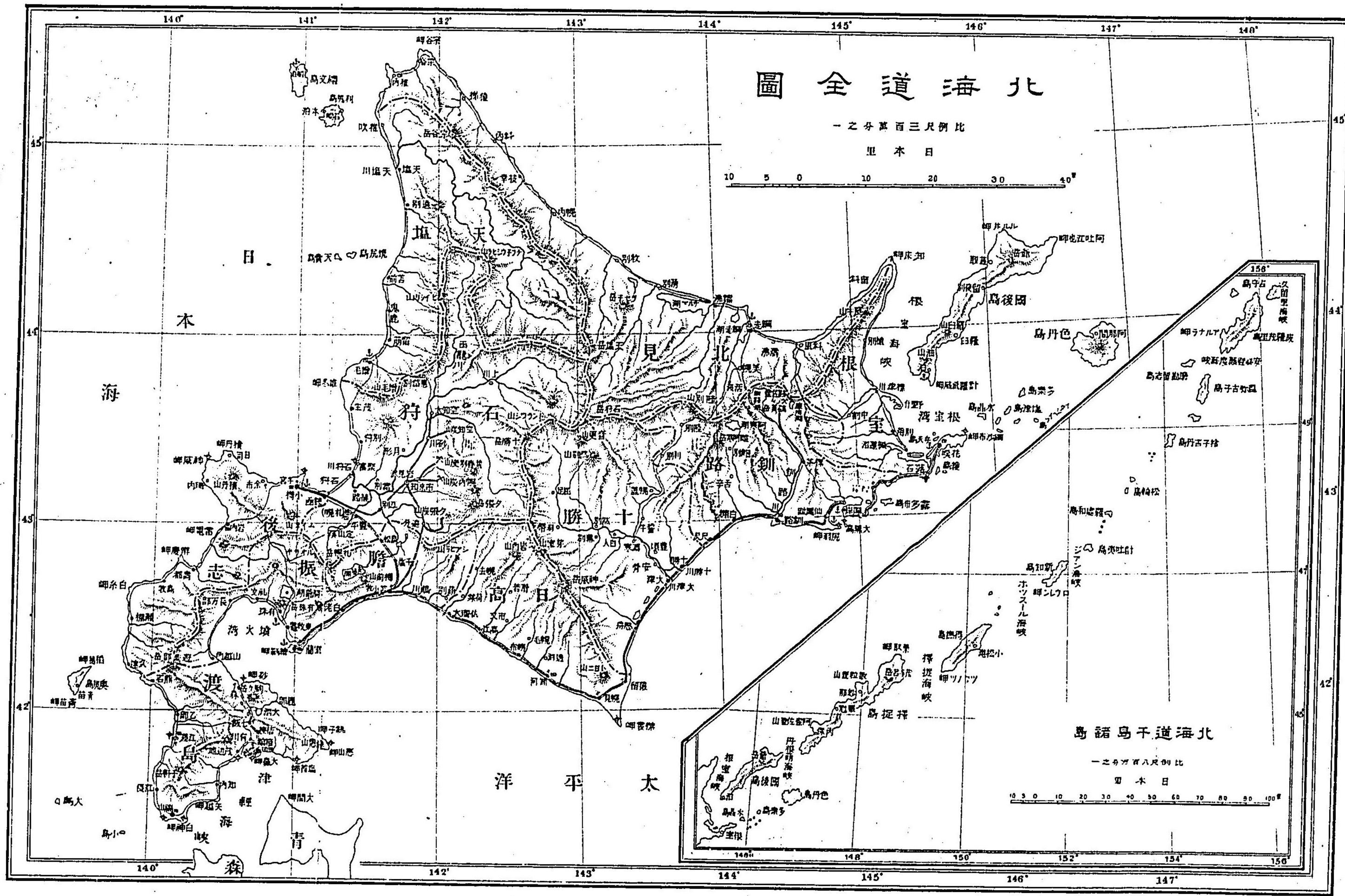
(二五) 大隅ノ名邑ニハ加治木、國府、福山等アリ、何レモ鹿兒島灣ニ面ス、東端ニ内ノ  
浦アリ。温泉ノ有名ナルヲ霧島トス、物産ハ烟草、茶、牛、鯨等ナリ。

(二六) 薩摩ノ鹿兒島ハ北ニ城山ヲ負ヒテ鹿兒島灣ノ西岸ニ位シ、島津公七十七萬  
石ノ城趾タリ、人口四萬七千、市況繁榮ナリ、名邑ニハ西海岸ニ阿久根、伊集院アリ、灣  
ノ西岸揖宿、谿山、山川、坊津ハ亦名アリ、温泉ノ有名ナルヲ櫻島ノ温泉トス。  
物産ハ陶器、薩摩燧、烟草、甘藷、麻、硯材、大理石、石墨、甌島、七島、阿久根、燒酎等ナリ。

### 第九章 北海道

#### 第一節 成立及總貌

(一) 北門ノ鎖鑰帝國ノ富源タル北海道ハ、明治二年創メテ開拓使ヲ設置シ、盛ニ拓  
殖ノ道ヲ講ジ、爾來幾多ノ變遷ト改良トヲ經テ遂ニ今日ノ北海道廳ヲ作スニ至レ  
リ、今先其拓殖ノ現狀ヲ提起シ、而ル後其ノ總貌ニ及ボサン。



北海海道全圖

比例尺三萬分之二  
日本里

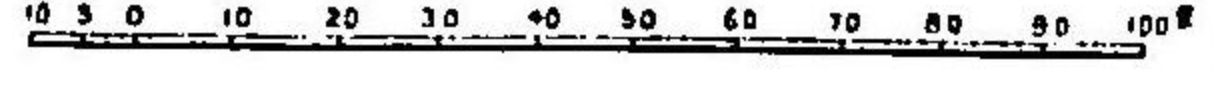


日本海

太平洋

北海海道千島諸島

比例尺八萬分之二  
日本里



本道現在ノ人口ハ僅ニ三十四萬三百七十餘ニシテ、之ヲ全道面積六千九十五方里ニ配スレハ、一方里ニ付五十六人ヲ容ル、ニ過キス、サレド開拓使設置ノ創始ニ當リテハ五萬八千ニ過ギサリシナリ、現今ノ人口ヲ以テ之ヲ本邦中人口最モ多キ畿内ニ比シテ、其密度ヲ較スレバ九十分一強ニ當リ、更ニ人口稀少ノ東山道ニ比スルモ尙二十分ノ一弱タルニ過キス。而シテ其氣候互寒堪ヘ難キニアラズ、水陸物産ノ富饒ナル、些少ノ勞力ヲ加フレハ能ク鴻利ヲ收ムルヲ得ベキモ、而モソノ開進ノ遲々タル所以ハ、蓋シ本州人民ノ未ソノ真相ヲ識ラザルニ由ラズンバアラス。

(参照)

	温 度			温 度		雨 雪	
	最高	最低	最高最低ノ較差	平均	平均	總計(耗)	
函 館	三二・一	零下 一九・四	五〇・五	八・三	七七	一、〇三二・〇	
上 川	三三・〇	同 三四・五	六七・五	四・六	八二	一、〇八一・三	
根 室	三二・四	同 一六・八	四八・二	五・九	七六	一、〇六四・一	

移民  
 (一) 北海道ノ移民ハ年々多キヲ加ヘ、明治二十四年各府縣ヨリ本道へ轉籍來住シタルモノ、四千五百四十二戸一萬五千七百三十八人ニシテ、之ヲ廿三年ニ比スルニ、

北海道、成立、移民

墾成  
耕地

八千二百四十五人ヲ増加セリ。  
 (三) 北海道ノ墾成耕地ハ廿四年ノ調査ニヨレハ、五萬二千四十二町二段歩ニシテ前年ヨリ増加シタルコト六千九百七町三段歩ナリ、之ヲ既墾地、新墾地ニ區別スレハ、既墾地田畑合計四萬五千七十二町四段歩ニシテ、前年ヨリ三千九百三十六町九段歩ヲ増シ、新墾地田畑合計六千九百六十九町八段歩ニシテ、前年ヨリ二千九百七十町四段歩ヲ増加セリ。

道路

土地拂下規則ニ準シ貸下ケタル地積ハ年々増加スルヲ例トス、只明治二十三年ニ於テ甚タシク減少ヲ見タルモ、全廿四年ニ於テ更ニ増加セリ、即チ全年ニ於ケル貸下地積九千八百六十一萬九千二百八十九坪千四百四十六筆ニシテ、拂下ケタル地積ニ於テハ廿三年迄漸次増加セシカ、全廿四年ニ其減少ヲ看ル、即チ全年度ニ於ケル拂下高ハ、百四十四萬六千三百七十七坪二千五百五十四筆ナリトス。  
 (四) 道路ノ延長里程ハ既成ノモノ五百八十里九町二間ニシテ、新開四十六里十七町五十六間ナリ。  
 原野排水ハ總延長七萬二百三十八間三尺五寸ニシテ、此工費四萬七千六百五十七

農産

圓六錢五厘ナリ。

(五) 多年ノ經歷ニ徴シテ北海道ノ農産ヲ檢スレハ、大豆、小豆、大麥、小麥、馬鈴薯、蕎麥、藍、粟、及大麻、亞麻、甜菜、葡萄、苺、梨等ヲ最トス。特ニ麻類ノ如キハ最モ盛況ヲ呈シ帝國第一ノ産物タリ。明治廿四年農産物ノ總價格ハ約百三十九萬二千七百十七圓ニシテ、之ヲ明治三年ノ四百七十五圓ニ比スレハ、殆ト二千九百三十一倍以上ニシテ更ニ之ヲ十年前即チ明治十五年ノ五十四萬五千七百七十圓ニ比スルモ尙二倍半以上ニ至ル。蠶業亦本道ニ恰適シ、野桑隨處ニ繁茂シテ更ニ栽培ノ勞ヲ用キス。

(參照) 明治廿五年ノ調査ニヨレハ

春蠶 千五百拾四戸ニシテ、掃立高四萬七千三百二十四、蛾千二百參拾一枚九分四厘、夏蠶 百九月ニシテ掃立高三千三百十二、蛾百九十九枚一分八厘。

牧畜

(六) 本道ハ最モ牧畜ニ適ス、就中日高地方ヲ最トス。新冠<sup>ニヒカツツ</sup>ノ御料地ハ二千餘萬坪ニシテ石狩、真駒内種畜場、及渡島ノ七重種畜場等ヲ初メトシ、其ノ他民業ニ係ル幾多ノ牧場處々ニ散在セリ。明治廿四年末ノ調査ニ依レハ、全道半數ハ官有民有ヲ合シテ三千六百二十六頭ニシテ、前年ヨリ三百二十八頭ヲ増シタリシ、馬匹五萬千七百

二十六頭ニシテ、前年ヨリ七百五十七頭ヲ増シタリ、豚數ニ至リテハ三千七百三十六頭ナリトス。

(參照) 牛馬豚數表

内國種	外國種	雜種	合計
牛 牝 六四九	牝 二六九	牝 五二〇	牝 一、四三九
馬 二五、九七七	二、三三六	一、二九〇	二七、六〇三
豚 一	一	一	三
合計	合計	合計	合計
牝 一、四三九	牝 二、三三六	牝 一、二九〇	牝 五、〇六五
牝 一、一七七	牝 七九九	牝 二、三三六	牝 四、三一二
牝 一、三三七	牝 一、〇五六	牝 二、三三六	牝 四、七〇九
牝 一、三三七	牝 一、〇五六	牝 二、三三六	牝 四、七〇九
牝 一、三三七	牝 一、〇五六	牝 二、三三六	牝 四、七〇九

(七) 本道ハ到處森林鬱鬱タルヲ見ル、但氣候ノ差異ニヨリ自ラ内地ト異ナルモノアリ、今其種類ヲ記サンニ、

- 辛夷、朴、桂、菩提樹、藥木、黃棟樹、楓、椴、椴、カダスギ、山櫻、花楸樹
- サヒタ、刺楸、女眞、桃、榆、山胡桃、白楊、桑、檜、榊、赤楊、樺木、羅漢柏、樺、蝦夷松、椴松、ハイ松(一名シモフリゴエフ松) 五鬚松

(八) 探礦事業ハ石炭、硫黃、銀、銅、硅藻土、石油、沙金、沙鐵、石灰石其ノ他諸礦物アリ、就中

夕張ノ炭山ハ最廣大ニシテ空知、幌内之ニ亞グ、銀山ニハ膽振ニ、ユーウツプ山アリ、硫黃ニハ釧路ニ「アトサノボリ」アリ。

(參照)

礦種	掘高 (トノ製出高)
硫黃	四、七〇七、四九三貫
石炭	五四七、四五四、一一四斤
石油	三〇石
鉛	一六〇、〇七四貫

水産

會社及製造所

(九) 本道ハ恰モ豊漁帶ニ當ルヲ以テ其水産ニ富ムコト驚クヘキモノアリ、鱈、鯉、鰯、鰒及昆布等其産額頗ル多シ、最近ノ調査ニヨレハ有税品無税品合計百三十九万五千九百二十六圓、海産九十五頭概價金七百八十九万七千五百五十七圓ナリトス。

(一〇) 本道漁業會社ノ數四個ニシテ資本金八十三万圓ヲ有ス、本道漁船ノ數ハ五万二千九十五艘ニシテ、前年ヨリ八百二艘ヲ増加シ、漁網ノ數二十八万九百統ニシテ、前年ヨリ増加シタルコト一万七千一百一統ナリ。

交通事業

ヲ舉ケンニ、  
 會社ハ其ノ數十五其ノ資本合計二百七十九万七千五百圓ニシテ悉ク蒸氣機關  
 ニヨリ内最モ大ナルヲ北海道製麻會社及札幌製糖會社トス。  
 製造所ハ四十六所其ノ資本金五十八万八千二百〇二圓ニシテ水車ヲ用フルモ  
 ノ二他ハ悉ク蒸氣機關ニヨル。

(一一) 本道ニ於ケル交通事業ノ主ナルモノハ鐵路及海運ニシテ將來全道ノ富源  
 ハ鐵路ニヨリテ開發スルヲ得ベシ鐵路ハ第一線手宮(後志)、幌內(石狩)、間(小樽)、札幌、江  
 別等ハ此線内ニアリ、第二線幌內太ヨリ幾春別間、第三線室蘭(釧路)、空知太間、第四線  
 空知、夕張(石狩)、間ナリ、其ノ他海運會社ヲ合算スレハ其數十二個ニシテ、資本金六百  
 九十七万二千七百六十五圓ナリ、本道ノ在籍船舶ハ總數汽船五十四艘、風帆船七十  
 艘ナリ。

商業

(一二) 本道ノ商業ハ時期ニ由リテ消長アリ、是レ人員ハ漁期ニ於テ多キヲ加ヘ、此  
 期ヲ過クレハ減却セルニ由ルモノニシテ、漁期ニ際スレハ内地ヨリ出稼ト稱シテ  
 漁獵事業ニ從ハンカ爲メニ、前金ヲ以テ雇ハル、モノ毎年十万人ニ及ブ、是等ノモ

ノハ其事業ノ終局ト共ニ歸縣シ、又本道ニ止マルモノナシ、而シテ本道商業ノ主ナ  
 ルモノハ漁用ノ仕込ト、漁獲物ヲ内地ニ輸送シ内地ヨリ日用品ヲ輸入スルトニア  
 ルヲ以テ、商業昌盛ノ時ハ一年中五六ヶ月ニシテ、他ハ徒手徒食ノ間ニ日月ヲ送ラ  
 サルヲ得ズ、然レドモ本道商業概シテ隆盛ナルヲ證スヘキモノアリ、左ニ船舶一年  
 間ノ出入表ヲ掲ケン、

	入 港	出 港
日本形船	九四八 (五百石以上)	九三一 (五百石以上)
	五、八四三 (全 以下)	五、六六七 (全 以下)
蒸氣船	九、〇九三	九、〇九〇
風帆船	一、二一三	一、二九一
更ニ輸出入ヲ驗センニ、		

輸 出	一二、九七二、〇〇六 <sup>四</sup> (廿四年)	七、一六九、二〇〇 <sup>四</sup> (廿一年)
輸 入	一四、九〇九、八六三 (廿四年)	七、七七一、七〇〇 (廿一年)

本道商業ノ樞機ヲ握ル銀行ハ其數三個ニシテ支店三個ヲ有シ、株金四十三万圓ナリ、



屯田兵

リ、然レ他府縣銀行ノ支店及出張店ヲ合スレハ十二個トナル、商業會社ハ十四個、其資本金九十四万三千八百九十圓ナリ。

(一三) 又別ニ屯田兵ヲ置キ、以テ北門ノ鎖鑰ヲ握リ本道ノ安寧ヲ保テリ、屯田兵ハ其模範ヲ露國格薩克ノ制ニ採リ、本道拓殖國防ノ兩策ヲ兼行セリ、故ニ本道邊防ノ虞ナク、開墾ノ成績歲ヲ逐ウテ見ルヘキアルニ至レリ、明治廿六年末ノ調査ニヨルハ、屯田兵總數四千十二人ナリ。

(參照)

渡島 七郡

函館、龜田、上磯、茅部、松前、檜山、附志

後志 十七郡

久遠、奥尻、太樺、瀬棚、釧路、島牧、歌來、磯谷、岩内、古宇、小樽、高島、忍路、余市、古平、美園、積丹、虻根 八郡

山越、室蘭、石狩、蛇田、幌別、勇拂、白老、千歲、

石狩 九郡

札幌、石狩、厚田、濱益、空知、夕張、樺戸、雨龍、上川、

天鹽 六郡

増毛、留萌、苫前、天鹽、中川、上川、

日高 七郡

浦河、沙流、新冠、静内、三石、様似、幌泉、

十勝 七郡

廣尾、富良野、十勝、中川、河西、河東、上川、

釧路 六郡

釧路、白糠、河東、足寄、川上、厚岸、

根室 五郡

根室、花咲、野付、標津、日梨、

北見 八郡

宗谷、枝幸、利尻、禮文、網走、斜里、常呂、紋別、

千島 九郡

國後、檜那、紗那、振別、榮取、色丹、得撫、新知、占守、

(一四) 本道ハ本邦ノ東北端ニ位シ、津輕海峽ヲ隔テ、東山道ニ連リ、宗谷海峽ヲ隔テ、樺太ニ對シ、東北端ハ「クルリ」海峽ヲ隔テ、東察加ニ隣シ、西ハ日本海ニ、東北ハ

總説

北海道、成立、總説

島嶼

「オコツク」海ニ、東南ハ太平洋ニ面セリ、本道ハ概シテ海岸平夷ニシテ屈折少ナク、僅ニ西部諸州ノ海岸、稍斷崖屈折多キヲ見ルノミ。  
(一五)本道ノ島嶼ハ、根室以北ニ横ハル千島群島ヲ主要ナルモノトス。千島群島ハ國後、擇捉、得撫、新知、捨子古丹、温爾古丹、波羅茂里、及占守等、總數三十二列島ヨリ成立ス。

千島群島ハ魯頌、カムサツカ、半島ニ連リ、氣候寒冷海霧濃密咫尺ヲ辨セサルコトアリ、地ハ率大山岩ヨリ成立セリ。千島ハ水産ニ富ミ、鱈、鮭、鯨等毎年巨額ヲ産ス、殊ニ臘虎ハ外人ノ密獵スルモノ多シ、水産全窓會ノ調査ニ據ルニ、明治元年ヨリ廿四年迄密獵船ノ來レルコト概四百艘、其ノ金額亦五千萬圓ニ下ラス、以テ本島ノ名産タルヲ知ルヘシ。

天鹽西海上ニアル利尻、禮文ノ二島ハ、其ニ有名ナル漁業地ニシテ鱈ヲ産スルコト莫大ナリ、其ノ他後志ノ西部ニ奥尻島、及大島、小島等アリ。

(一六)本道ニハ山嶽ノ高峻ナルモノ少ナシ、只千島日高兩山脈ノ結合スル處、高山連互疊々タルヲ見ル。

山嶽

千島山脈海ヲ踰エテ知床岬ニ顯ハレ、良牛、斜里、五四〇〇尺、硫黃ノ諸山ヲ作シ、更ニ釧路ノ北境ニ近キ釧路湖ノ西方ナル、雌阿寒四七九〇尺、雄阿寒ノ二岳ニ連リ、北見國境ノ陸別山ヨリ西向シテ、オプタテシケ(七二〇〇尺)ノ山塊ヲナセリ、石狩岳、十勝岳(七〇〇〇尺)ハ其主峯ニシテ本道ノ最高點ヲナセリ、東北山脈ハ宗谷岬ヨリ起リ、東南ニ走リテ北見天鹽ノ境ヲナシ、宗谷岳、ホロ岳、天鹽岳、常呂岳ヲ經テ、オプタテシケノ山塊ニ會ス、日高山脈ハ襟裳岬ヨリ起リ、西北ニ走リテ日高、十勝及十勝、石狩ノ境ヲナシ、更ニ東北ニ轉シテ終ニ又、オプタテシケノ山塊ニ會ス、之ニ屬スルモノ、主ナルハ樂古(三五九〇尺)、豐居、神威(六五〇〇尺)、芽室(五七〇〇尺)、竿呂岳等ナリ、其ノ他石狩ノ南部ニ幌内炭山、夕張岳等アリ、岩内山ハ日高ノ西北部ニ在リ、石狩ノ南端膽振ノ國境ニ札幌岳アリ、膽振ノ北境支笏湖ノ北ニ紋鼈嶽(二六〇〇尺)、其ノ南部ニ樽前山アリ、西方白老山(二三〇〇尺)アリ、其ノ西南ニ有名ノ噴火山有珠岳アリテ洞爺湖ノ南方噴火灣頭ニ立チ、遙ニ渡島ノ駒ヶ岳(三二二〇尺)ト對峙シ、兩々火烟ヲ吐ク國ノ北境ニ近ク、マクカリスプリ(六七〇〇尺)アリテ蝦夷富士ノ稱アリ、所謂後方羊蹄是ナリ。

河流

後志ノ國境ニハ岩内(三六〇〇尺)硫黄雷電ノ諸山アリ、シコタン半島ニハ積丹山アリ、遊樂部山(五一〇〇尺)ハ恰モ三國ノ境上ニ立チ、是ナリ東南方ニ走ルモノヲ濁川岳、駒ヶ岳、大川岳(三四九八尺)惠山等トス。

(一七)本道ノ河流ハ之ヲ本州ニ比スルニ稍異ナル點アリ、即チ(一)本道ノ山脈ハ、一ハ千島列島ヨリ起リ本道ヲ中斷シテ西南ニ涉リ、一ハ西北ヨリ來リテ南東ニ走リ、而シテ一ハ又中央南端ヨリ起リテ西北ニ走リ、十勝石狩ノ境上ニ於テ高峻ヲ極メ、茲ニ諸川ノ分水界ヲナセルヲ以テ、本道ノ水流ハ四面ニ其ノ方向ヲ探レリ、(二)河道多クハ屈曲シ、且春季融雪ノ候河道ノ變更ヲ來タシ、或ハ流水等ノ堆積ニ遇ウテ其方向ヲ變スルコト是ナリ。

本道第一ノ長流ハ石狩川ニシテ、天鹽、十勝ノ二川之ニ亞グ。

石狩川ハ國ノ東境石狩岳ニ發シ、西北流シテ上川郡ノ高原ヲ過ギ、高原盡ル處神威古潭ノ激湍トナリ、更ニ西シテ國ノ北境ヨリ發シ南流スル雨龍川ヲ併セ、南流シテ日高山脈ノ北麓ヨリ發セル空知川ト合シ、河勢雄壯トナリ石狩平原ヲ西南シ、支笏湖ヨリ發セル千歲川、國ノ西南境ヨリ發セル豐平川ヲ容レ、西北流シテ石狩ヨリ

海ニ入ル、長サ百六十七里、舟楫ヲ通ズルコト約百里、河口ハ鮭漁甚盛ナリ、雨龍川トノ會合邊ヨリ河口ニ至ル間ヲ、地味肥沃ニシテ有名ナル農場多シ。

天鹽川ハ天鹽ノ國境天鹽山ニ發シ、東北山脈ノ縱谷ニ沿ツテ西北流セリ、水源低キヲ以テ奔湍急射ノ處ナク舟行ニ便ナリ、長程七十里。

十勝川(木津川)ハ十勝岳ニ發源シテ、十勝高原ヲ東南流シ、河口二分シテ太平洋ニ入ル、其東流スルモノヲ本流トシ、東南流スルモノヲ大津川ト云フ、流程五十三里、舟楫ノ便アリ。

釧路ノ「クスリ」河ハ、源ヲ北境ニ近キ「クスリ」湖ニ發シ、南流シ、河口ニ近ツクニ至リテ阿寒湖ニ發セル阿寒川ヲ併セ、釧路港ヨリ海ニ入ル、北見ニ湧別、常呂、斜里ノ諸川アリ、常呂川最モ大ナリ、源ヲ石狩國境ニ發シ東北流シテ「オコック」海ニ入ル、長程三十里、其ノ他後志、利別ノ二川アリ、後志川ハ膽振ノ北境ニ發源シ、西北シテ後志ヲ貫キ日本海ニ入ル、利別川ハ後志ノ東端ニ發シ、南北流シ更ニ西轉シテ海ニ入ル、長サ二十八里。

日高ノ新冠川(二十六里)、釧路ノ西別川(二十八里餘)、根室ノ標津川(十六里)、天鹽ノ羽幌

湖沼

川二十里皆本道ノ名流タリ、就中西別ノ河口ハ鮭漁ヲ以テ著ハル。  
 (一八)本道ノ湖沼ハ山中ニ在リテ、其成因(一)火山ニ關スルモノト(二)沙濱ニアリテ砂丘ノ爲メニ成リシモノトニ區別スルヲ得可シ、及(三)大河ニ舊河道ヨリ成ル狹長ナルモノ内地平低ノ處ニ多シ。北見ノ猿間沼ヲ最大トナス、周圍二十里、次ヲ根室ノ楓蓮沼(周圍十五里)、膽振ノ支笏湖十五里、釧路ノ釧路湖(十三里)、渡島ノ大沼湖(八里)等トス、其ノ他六里以上ノモノ、釧路ノ摩周湖、阿寒湖、及北見ノ網走湖等アリ。

習俗  
生業

### 第二節 人事誌

(一九)本道ハ元殖民地ナルヲ以テ其人情雜駁ナルヲ免レズ、何トナレハ拓殖日猶淺クシテ未本道ニ通スル一般習俗ノ歸一ヲ見ル能ハサレハナリ、然レトモ一旦意ヲ決シテ此地ニ移リシ者ナレバ、勇往事ニ從ヒ克ク艱苦ニ堪フ、特ニ其ノ漁業ニ從フ者ニ至リテハ、功利ノタメニ身命ヲ賭スルノ概アリ。  
 移住民ノ外又別ニ土人アリ、是即アイヌ種族ニシテモト本州ニ住セシモノナレドモ、次第ニ驅逐セラレテ今ヤ僅ニ本道所々ニ居住スルアルノミ、而モ猶本州人ノ増

渡島

殖スルニ隨ヒ、漸ク甚生存ノ途ヲ失シ、年ヲ遂フテ殲滅ニ歸セントスル傾向アリ、アイヌ種ノ最モ多數ナルハ本道日高國ニシテ約六千人、次ハ膽振國ニシテ約三千五百人、其ノ他ヲ合スレハ計一萬八千餘人アリ、本道人民ノ生業ハ漁業ヲ主トシ、農業之ニ次キ、鑛業及製造業ノ成績モ亦頗見ルベシ。

(二〇)渡島灣ニ臨メル渡島ノ函館ハ本道ノ咽喉ニ當リ、全道ノ輸出入悉ク此港ヲ通スルヲ以テ、商況ノ活潑ナルコト横濱、神戸ノ諸港ニ次ク、本邦五港ノ一ニシテ人口五萬三千餘、灣形屈曲シテ巴狀ヲナシ、四時風濤ノ險ナク船舶常ニ輻湊セリ、其ノ近傍ニ五陵廓アリ、戊辰ノ役著名ナル陣地タリシ處ナリ。

西南海岸ニアル福山ハ、松前氏三萬石ノ城址タリシヲ以テ、本道他部ノ人民トハ言語風俗等多少ノ相違アリ、人口一萬一千、西海岸ニアル江差ハ日本海ニ臨ミ、市街繁榮人口一萬五千、噴火灣頭ニ在ル森ハ、斯國ノ名邑ニシテ室蘭ヘノ渡津タリ、當國ノ溫泉ハ函館ノ谷地頭及國ノ東南ニ在ル惠山、河吸等ハ最モ著名ナリ。  
 平原ハ檜山郡ニアル鶉及館原野、及湯ノ岳、及小黑部原野(百三十萬坪)等アリ、物産ハ製氷ヲ最トシ、其ノ他鱈、鯧、昆布、硅藻土、沙鐵、沙金等ナリ。

(一一) 後志ノ西北部石狩ニ近キ處一半嶋洋中ニ突出シ左右二灣ヲ構成ス其ノ北ナルヲ石狩灣ト云ヒ其ノ南ナルヲ後志灣ト曰フ後志灣中辨慶崎ノ東南ニ壽都港アリ船舶ノ出入ニ便ナリ。

石狩灣内高島岬ノ南ニ當リテ小樽アリ人口二万六千本道西海岸ノ要港ニシテ西部商品ノ本港ヲ通セサルハナク札幌ニ到ルノ物品本港ヨリ更ニ鐵路ニ委スルヲ以テ商業ノ盛衰クヘキモノアリ本港ニ來ル船舶ノ多クハ日本海諸港ヨリ來ルモノヲ多シトス就中漁業時船舶ノ出入甚多シ此國沿岸多クハ漁業ニ富ミ岩内餘市等其ノ有名ナルモノナリ平原ハ利別川沿岸ニシテ其ノ上流十八里附近ノ地六万坪ノ原野アリ温泉ノ有名ナルハ雷電山腹ノ雷電湯トス物産ハ鯨、搾粕、鱈、硅藻土、石油、沙鐵、沙金、硫黃等トス。

(一二) 第五鎮守府ノ豫定地タル膽振ノ室蘭ハ又特別輸出港ニシテ噴火灣ニ臨ミ西ニ繪柄岬ヲ控ヘ遙ニ渡島ノ森港ト對シ港内水深クシテ碇泊ニ便ナリ殊ニ炭鐵鐵道線開通シテヨリ本港ノ繁榮日ニ加ハル當國ノ平原ハ後志川ノ兩岸及苦小牧ヨリ北方千歲川兩岸ニ跨ルモノヲ最大トス膽振ハ山國ナルヲ以テ耕作ニ適スル

ノ地ニ乏シク僅カニ二千万坪ヲ有スルノミ此國登別山中ニ登別湯アリ本道ノ名鐵泉タリ。

此國ノ有珠郡ニ伊達邦成ノ開墾地アリ是明治初年ニ當リ其ノ藩臣ヲ率キテ此ノ國ニ渡リ共ニ開招セシ所タリ廣サ五千二百餘町歩ニ達ス。物産ハ石材、大豆、小豆、甘菜、砂糖、麻、銀、銅等トス。

(一三) 日高沿海ノ名邑ニハ浦河、幌泉アリ此ノ國ハ氣候温暖ニシテ牧畜ニ適ス、新冠ノ牧場ハ國ノ西部ニ在リテ御料地ニ屬シ年々多數ノ軍馬ヲ産ス其ノ他牧場開墾地尠ナカラス物産ハ昆布、鮑、藍等ナリ。

(一四) 石狩平原ノ西南部ニ在ル札幌ハ北海道廳ノ所在地ニシテ本道第二ノ都會タリ人口二万五千農學校、病院、及製麻、麥酒製絲等諸會社ノ設置アリ市況繁榮ナリ。鐵路ハ西ノ方小樽、及東幌内炭山ニ通シ更ニ南方室蘭港ニ延長セリ其ノ他日本海沿岸ニ石狩アリ又名邑タリ石狩平原ハ尤モ殖民ニ適シ全道第一ノ平原タリ總計四億五千九十九萬坪ニシテ内耕作ニ適スルノ地ハ六千九百十二萬坪アリシモ、今ヤ需要日ニ多ク殆ント貸下ノ土地ヲ殘サルニ至レリ物産ハ麥、牧草、麻、麥酒、葡

葡萄酒、苹果、石炭、鮭等トス。

天鹽

(二二五) 天鹽ノ名邑ニハ西海岸ニ増毛、留萌、鬼鹿、苫前等ノ諸邑アリテ、皆漁業ヲ以テ著ハル。就中増毛其ノ好位置ヲ占メ、港灣少ナリト雖、後來有望ノ地タリ。天鹽川ノ上流、ナヨロ川近傍ノ地ヲ斯國ノ平原地トス、面積二億千七百三十萬餘坪ニシテ、内耕牧ニ適スルモノ一億五千四百四十萬坪餘ナリ。物産ハ昆布、搾粕、鮭等ナリ。

北見

(二二六) 北見ノ宗谷ハ國ノ北端宗谷岬側ニアリ、網走湖畔ノ網走、及沿岸ニ常呂、紋別等ノ諸村アリ。當國ノ平原地ハ常呂、網走、斜里等諸川ノ沿岸ヲ主ナルモノトシ、地味豊肥、氣候温和ニシテ、其ノ總面積二億七千九百六萬七千餘坪アリ。物産ハ鱈、鮭、鱈、鮭、藻土等ナリ。

十勝

(二二七) 十勝ノ大津、湧洞、歷舟、茂寄等ハ皆大平洋沿岸ニアリ、十勝河畔ハ野草繁生且水利ニ富ム、西北ニ連峯ヲ負ヒテ能ク寒風ノ來襲ヲ防グ、平原總面積ハ八億九千二百九十三萬餘坪ニシテ、内二億千四百萬坪ハ耕牧ニ適ス。物産ハ十勝石、木材等ナリ。

釧路

(二二八) 釧路沿岸ニハ釧路、仙鳳趾、厚岸、濱中、榑町等ノ港邑アリテ、氣候寒冷ナリ、平原ノ總面積四億七千四百萬餘ニシテ、概耕牧ニ適ス。物産ハ硫黃、木材、鱈、牡蠣、昆布等ト

根室

(二二九) 根室ノ根室港ハ、國ノ東南ナル花咲半島ノ中部ニ位シ、根室灣ニ臨ミ、前面辨天島ヲ控ヘ、本道東北部ノ要港ニシテ、市街繁榮ナリ。將來千島開拓ノ成功ヲ見ルニ至テハ、全島ノ產物主トシテ本港ヲ通過スルヲ以テ、其ノ繁榮想見スベシ、唯灣水氷結ノ患アルヲ以テ、半島外側ノ花咲港ニ依ラサルヲ得ス。此ノ沿岸漁利ニ富ミ、就中標津、別海等ノ小邑尤モ著ハル。平原ハ總面積三億八千萬坪ニシテ、モサ平原ヲ第一トナス、他ハ概子肥、療半バセリ。物産ハ昆布、鱈、鮭等ナリ。

外篇

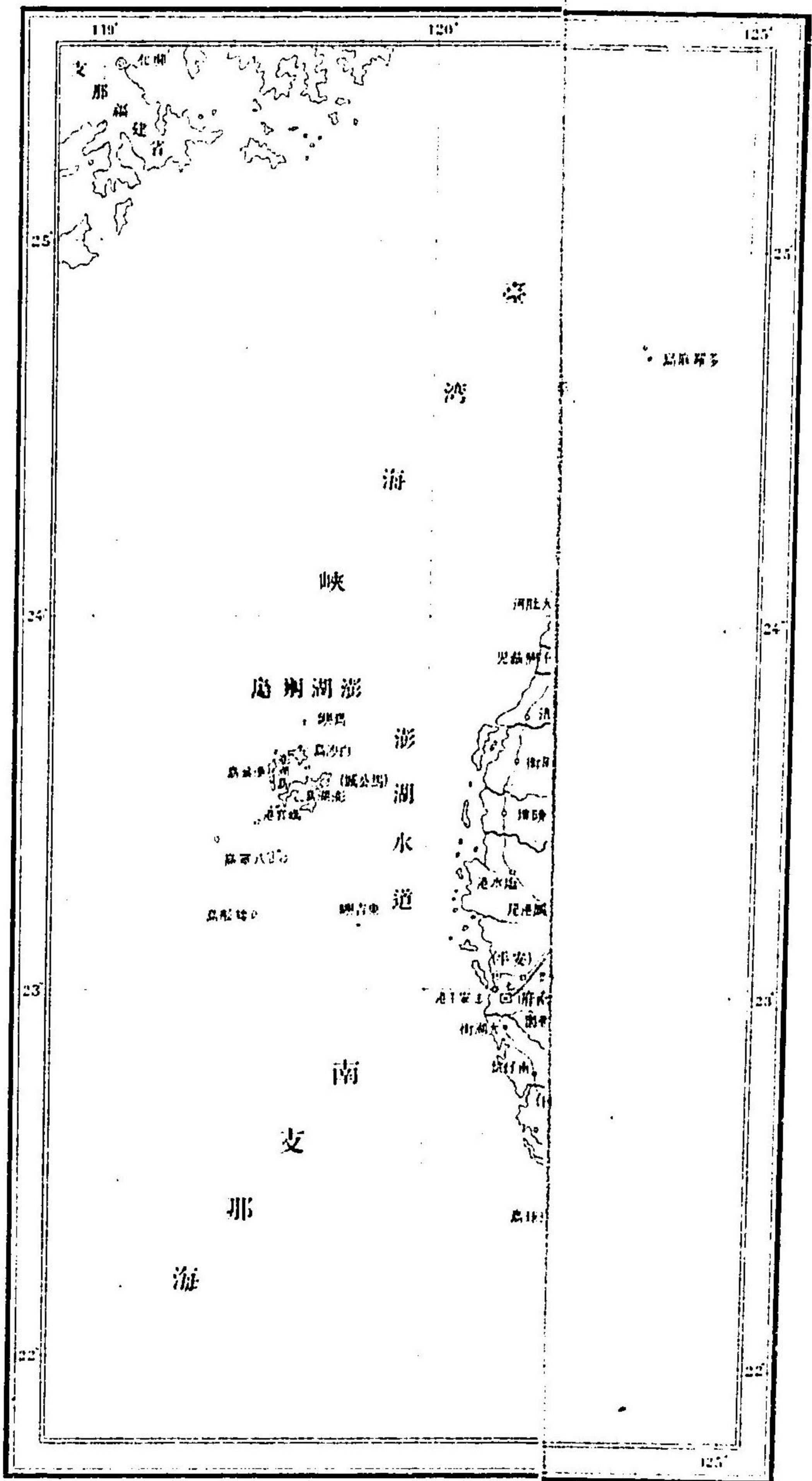
第一章 臺灣

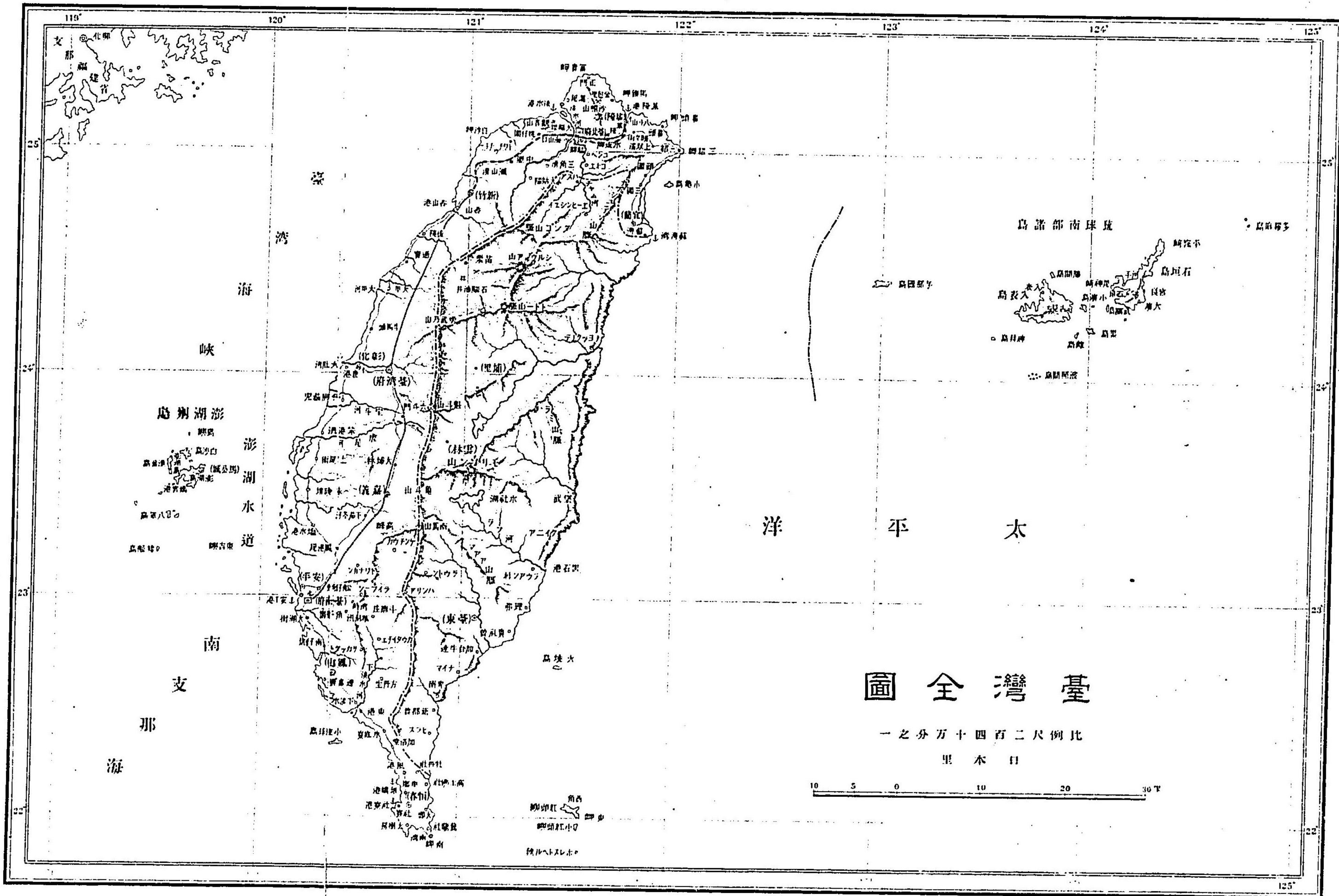
第一節 成立及總貌

外篇 成立 島嶼

(一) 帝國ノ西南端、清國福建省ノ東南海洋中ニ一大島アリ之ヲ臺灣トス。北緯二十一度五十三分ヨリ、全二十五度十六分ニ延キ、東經百二十度十五分ヨリ、全百二十二度四分ニ亘リ、南北ニ長ク東西ニ短ク、其ノ形魚ニ似タリ、延長二百十里、幅最廣キ所六十哩乃至七十哩、海岸線ノ長サ四百五十哩、面積凡ソ一萬四千九百七十八方哩ニシテ、東北ハ琉球諸島ヲ望ミ、東南ハ遙ニ呂宋島ニ對シ、西方約二百哩ノ海峽ヲ隔テ、支那大陸ノ廈門、福州等ニ對ス。

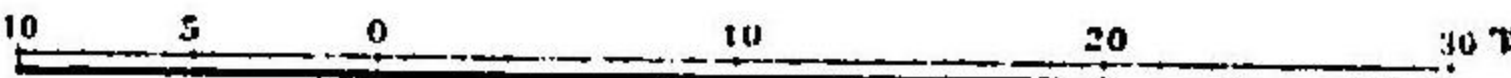
(二) 臺灣島ヲ圍繞シテ數多ノ島嶼アリ、内澎湖列島最モ著ハル、蓋シ臺灣海峽ノ要衝ニ位シ、其鎖鑰ヲナセバナリ、其ノ最大ナルモノハ周圍凡ソ十八里餘、其ノ他大小ノ島嶼六十アリ。





臺灣全圖

比例尺 1/400,000  
公里





(三) 臺灣ハ昔時東寧、東蕃、塔伽、大宛、沙古等ノ稱アリシモ、本是支那人ノ名ツケタル所ニシテ、歐洲人ハ之ヲ「フォルモサ」(Formosa)ト稱ス、蓋シ美麗ナル島ノ謂ヒナリ。

(參照) 「フォルモサ」ノ名ハ當初臺灣ノ北端、鷓籠ニ移民シタル葡萄牙人ノ命名シタル所ニシテ、原名チ「イルハ、フォルモサ」ト謂フ。

(四) 臺灣ハ元歐洲人ノ發見ニ係リ、其ノ支那ノ藩屬ニ歸セシハ紀元千六百八十二年清國康熙二十一年(我ガ天和二年)ニ在リ、爾來全國光緒十一年(我ガ明治十八年)初メテ一省ヲ置キ大ニ本島ノ治理ヲ謀リシモ、今ヤ帝國ノ所領ニ歸ス。

(參照) 臺灣ノ歴史ハ漠然タルモ、史傳ニヨレハ紀元一千四百三十年、西班牙船ノ偶然颯風ノ爲メ本島ニ漂着セシ時、始メテ此ノ島ノ在ルコトヲ知り、後一千六百二十年我ガ元和年間ノ冬頃、一旦我ガ國船隊ノ占領ニ歸セシモ、和蘭人ノ來航セシモノ多ク、自然和蘭領ノ如ク、爾來三十餘年間全國人茲ニ商業ヲ營メリ、是實ニ一千六百二十五年ノ事ナリトス。蘭人先ツ其西端ニ「シーラント」ト稱スル邊壁ヲ築キ、其ノ土民ヲ治ムルヤ一ニ舊制ニ準ジ、舊來ノ酋長ヲ任用シテ各部落ヲ治メシメ、旁ヲ土民ノ道德上精神上ノ改良ニ注意セリ。一千六百六十二年(寛文二年)明ノ鄭成功部下ヲ率ヰテ本島ニ航シ、蘭人ヲ掃蕩シ明ノ正朔ヲ奉シタル二十年、終ニ清朝ニ滅セラレ後全ク清國ノ管轄ニ

歸セリ。紀元一千八百九十四年及一千八百九十五年(即明治廿七年全廿八年)ノ帝國及清國トノ間ニ戰爭起リ、帝國全勝ノ結果トシテ帝國長門國馬關ニ於テ講和條約ヲ締結セリ、其ノ第二條ニヨリ本島ハ遂ニ帝國ノ版圖ニ歸セリ。

臺灣ノ軍事上及商業上樞要ノ地タルハ、西人「ジョン・エス、ダグイス」ノ言ニヨリ之ヲ證スルヲ得可シ、曰ク「フガルモサ(臺灣)ハ支那海軍ノ倉庫ニシテ、其支那ニ對スル關係ハ「シシリー」ノ古代羅馬ニ對スルガ如シト。

(五) 臺灣ノ氣候ハ日本々州ヨリ遙ニ溫暖ニシテ、對岸ノ支那大陸ヨリモ猶一層ノ高溫ナリ、故ニ本州ニ見サル幾多ノ植物繁茂シ、省藤屬及檳榔樹ノ如キ尤モ多シ、又昆蟲類ニシテ海南、フキリピン諸島、并ニ馬來群島ニ於ケルト同一ナルモノ頗多シ、夏期ハ概酷熱ニシテ往々華氏百度ニ達スルヲアリト雖モ、通例九十七八度ノ候ニアリ、冬期ハ四五十度ヲ最低トス、一年中五、六月頃ハ溫熱最高クシテ、夏至ハ中和ナリ、只梅雨ノ節瘴癘ノ氣多ク人體ヲ害フモ、大氣ハ概清爽ナリ、今淡水地方氣候ノ一斑ヲ示セバ、

明治廿一年(二月) 最低溫度 華氏四十度  
 最高溫度 全 百度

全 (八月、九月、十月) 最低溫度 全 六十度  
 全 (八月、九月、十月) 最高溫度 全 七十一度

雨ハ概シテ秋冬ニ多ク春夏ニ少シ、雨量ハ甚タ不定ナルモ平均十五吋九ナリトス、其一斑ヲ示セバ、

明治廿年 零吋三八  
 明治廿一年 十七吋四九  
 明治廿四年 十七吋二九

風ハ東北ノ方烈シク、澎湖島ノ如キハ常ニ家屋ヲ破壊ス、此ノ風常ニ秋期ニ多シ。

(參照) 臺灣記錄ニ

五六月間、盛暑鬱積、東南雲蒸、雷聲震厲、滂沱立至、謂之西北雨、蓋東南風一送雨、仍歸西北也、此雨不久便晴、多連發矣。

又曰、三午八九月後、雨少風多、其威愈烈、掃葉捲簾、塵沙蔽天、常經旬不止、唯新庄、藍脚、四山環繞稍減、自桃仔園至大甲、則颶忽殊甚、此淡水風雨、與南路不同也、云々

清人張娟ノ詩ニ曰ク、

少寒多煥不霜天、木葉長青花久妍、真個四時皆似夏、荷花度臘菊迎年、

人種

(六) 臺灣ノ人種ハ大別シテ三種トス。第一種ハ支那人種ニシテ、即支那福建廣東兩省ノ移住民ナリ。第二種熟蕃族ハ世ノ所謂雜種族ト稱スルモノニシテ、性質温良最モ農耕ニ勉メ、風采舉動能ク帝國民ニ類セリ。第三種ハ生蕃族ニシテ百餘ノ部落ニ分レ、馬來人種ニ類セリ、性質暴猛ニシテ殺戮ヲ好ム。

臺灣ノ人口ハ、未精細ナル統計ヲ得サレドモ、大約左ノ如シ

- 臺灣本島 支那人種及熟蕃族共凡三百萬人
- 澎湖島 支那人種凡八萬人
- 紅頭嶼 蕃族凡一千人
- 火燒嶼 蕃族凡五百人

計 三百八萬一千五百人

風俗

(七) 臺灣ノ風俗ハ人種ニ依リ異ナレリ、支那人種ハ大抵其本國ト異ナルナシ、蕃族ハ概テ一幅ノ布ヲ身邊ニ纏ヒ、身體ニ文刺スルヲ以テ勇者ト稱スル癖習アリ。食物ハ米、及菓物、野菜ニシテ、家屋ノ構造ハ市街ニ在リテハ煉瓦石ヲ用ヒ、屋根ハ瓦葺ニスルモ、僻村ニ至ルニ隨ヒ、竹造ニシテ茅家ナリ。

物産

(八) 臺灣ノ物産ハ甚タ多カラズ、水産ニ至リテハ絶エテ着手ノ跡ヲ見ス、是土人ノ魚類ヲ好マザルニ因ルナリ。農産ハ較發達セリ、其主要ナルモノヲ舉クレハ、米、茶、砂糖、甘蔗、及各種ノ野菜類等ナリ、米及甘蔗ハ年二回ノ收穫アリ、其ノ他織物、製油、及藥劑用ノ植物ニ富メリ、探礦事業ハ微々タルモノニシテ、僅ニ硫黃、及少數ノ石炭ヲ産スルノミ。

(參照) 米ノ植付及刈取期ハ左ノ如シ、

	植	付	刈	取
初期	自三月中旬至四月上旬		自六月中旬至七月上旬	
二期	自十月下旬至十一月上旬		自十月下旬至十一月上旬	

茶ハ臺北地方尤モ多ク、漸目悉ク茶樹ナラサルハナク、我付ニ當リテ別ニ肥料ヲ要セ  
ス、一番芽ヲ摘ミ採ルハ五、六、七、月ノ交ニシテ、二番、三番ノ芽ハ八、九、十、月迄ニナスコノ  
トス、樹ハ小ニシテ葉赤色ヲ帯ブ。

甘蔗ニ二種アリ、一チ赤蔗、他チ白蔗ト云ヒ、兩種共ニ七八尺ヨリ一丈餘ノ高ニ達ス、臺  
灣ノ物産ヲ列記スレハ

臺灣島ノ分

米、砂糖、芝麻、荳蔻、樟腦、石炭、甘蔗、茶、甘蔗、榨皮、竹、葉樹、西瓜、麝香、木綿、硫黃、鹿皮、山馬、海參、松  
魚、鮑、鱔、鮓、鯉、魚、鱒、獐、野猪、栗鼠、山猪、鷓鴣、鴉、鳩、鵲、夏鷄、鴨、鵝ノ類、

澎湖島ノ分

胡椒、甘蔗、荳蔻、米、其ノ他ノ穀物、海産物等、

商業

(九) 臺灣ノ商業貿易ハ盛況ト云フニアラサルモ、亦注意ヲ引クニ足ル、明治廿四年  
本島外國輸出入額ヲ算スルニ、

輸出 七百二十九萬二千八百六十七圓十二錢  
輸入 二百七十六萬五千零四十九圓九十八錢

ナリトス、而シテ貿易品ノ主要ナルモノハ、茶、砂糖、樟腦等ニシテ、茶ハ殆ント北米合

領事

衆國ニノミ輸出シ、砂糖ハ過半日本ニ、餘ハ香港及支那諸港ニ輸出シ、樟腦ハ歐羅巴  
ニ輸出セリ。

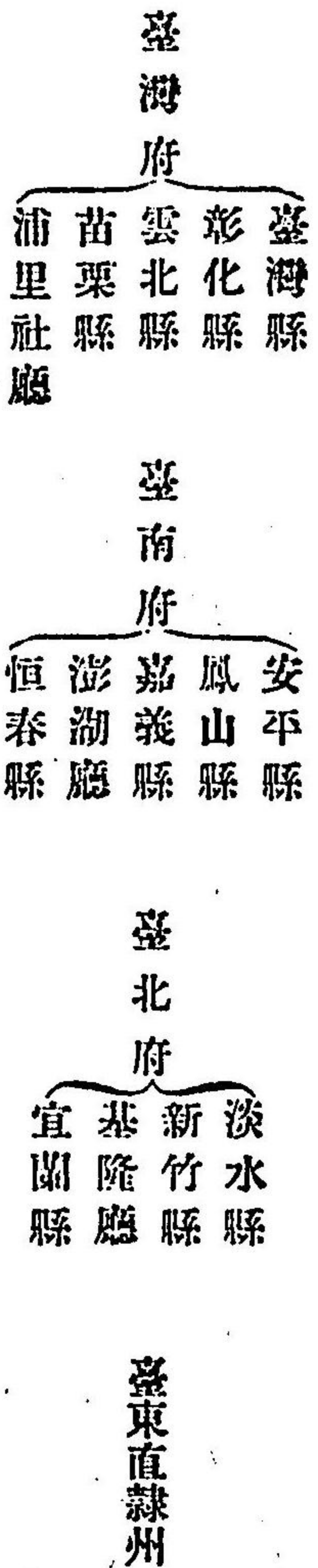
(一〇) 臺灣ニ領事ヲ置ケル歐米各國ハ、英吉利、日耳曼、和蘭、澳地利、匈牙利、西班牙、瑞  
典、及諾威、北米合衆國、佛蘭西、丁抹ニシテ、淡水、基隆、臺灣、打狗ノ各處ニ配置セリ。

道路衛生

(一一) 臺灣ノ道路及衛生ハ極メテ不完全ニシテ、道路ハ森々タル林叢ヲ辿リ、羊腸  
タル細徑ヲ步セサルヘカラザルヲ以テ、貨物ノ運搬歩行等ノ不便甚ダシ、加之飲料  
水不良ニシテ、街衢衛生ノ法備ハラサルニ依リ、一期惡疫ノ流行スルアラハ、蔓延ノ  
勢殆底止スベカラザラン。

區劃

(一二) 臺灣ノ行政區劃ハ、將來如何ノ變化ヲ生スベキカヲ知ラサレモ、現今ノ制度  
ニヨレハ、府三、直一、縣十一、廳三、トス、則チ左ノ如シ、



外篇、臺灣、商業、領事、道路、衛生、區劃

行政組織

總統

海岸

(一三) 本島ニハ總督府ヲ置キテ行政組織トシ、又別ニ中央部臺灣事務局ヲ設置シ、内閣ノ直轄ニ屬セシメ、協心熟議速ニ治績ノ功ヲ舉ケンコトヲ期セリ。

(一四) 臺灣ノ地勢ハ中部最モ廣ク、南北ニ至ルニ隨ヒ漸ク狹シ、延長二百哩ニ亘ル長山脈ハ、北ヨリ南ニ走リ、全島ノ地勢ヲ東西ニ二分シ、東部岩石山ヲ疊ミテ平坦ノ地稀ナレトモ、西部ハ渺茫タル原野ヲ隔テ、遙ニ海洋ヲ望ム、脈中ノ最高點ハ、シルウキア山(一一三〇〇呎)、モルクソン山(一二八五〇呎)ナリ。

(一五) 臺灣ノ沿岸ハ極北地方ヲ除クノ外、良港ニ乏シク、特ニ東部海岸ノ如キハ、險岸屏風ノ如ク、岩礁參差舟ヲ寄スヘキノ地ナシ、纔ニ澎湖本島、白沙、漁翁兩島ト抱合スルノ處、一大良灣ヲ組成セリ、灣内水深クシテ廣キヲ以テ、大艦數十艘ヲ泊スヘシ、此ノ灣内別ニ澎湖島ノ西南ニ當リ一海灣ヲナス、之ヲ媽宮港ト云フ、地ハ南洋ノ要衝臺灣ノ門庭ニ位スルヲ以テ、船舶多ク風浪ノ難ヲ此ニ避ク、然レモ海上常ニ霧深クシテ尺寸ヲ辨セサルコトアリ。

臺灣最北ノ一港ヲ基隆港(鷓籠)トス、三面山ヲ負ヒ海水深ク灣入スルコト二里、港内廣サ二十餘町能ク大艦ヲ泊スルヲ得ベシ、基隆ト相並ビテ淡水河口ニ淡水港アリ、港

内廣サ十七町餘、鹿港ハ臺灣ノ中央部ニ在リ、清國福建省ト相對シ、商賈輻輳ノ地ナリ、西部海岸ニ打狗港アリ、水淺クシテ船舶ヲ泊スルノ便ヲ缺クモ、港内ヲ浚渫セハ能ク大艦數十隻ヲ容ル、ニ足ル、其ノ他東港、笨港、布袋嘴港、麥寮港、琅琦灣等アルモ、僅カニ港形ヲナスニ過ギス。

臺南府ニ通スル海口ニ安平港アリ、地ノ要害タルヲ以テ名アリ、其ノ他南部ニ社寮港、風港アリ、社寮港ハ明治七年帝國征蕃ノ師ノ上陸點タルヲ以テ邦人ノ記憶ニ存ス、東部海岸ノ蘇澳港ハ、港内水深クシテ、大船巨舶ヲ入ル、ニ足ル。

(參照) 臺灣、基隆、安平三港ヨリ、帝國長崎港、及支那内地諸港ヘノ里程ヲ示セハ

	基隆	淡水	安平
長崎(日本)	六百三十七海里	六百四十海里	八百七十海里
上海(支那)	三百七十六海里	—	三百海里
福州(全)	百五十海里	百三十七海里	百八十里
廈門(全)	六百四十海里	二百〇三海里	六百五十海里

(一六) 臺灣ノ山脈ハ北ヨリ南ニ連リ、本島ノ脊骨狀ヲナシ、左ノ諸山ヲ包含セリ。

モルクソン山 高 一二八五〇呎

外篇 臺灣、海岸、港灣、山嶽

シ ル ウ キ ア 山	分 水 山	分 水 山	草 山	大 山	内 山	一 山	二 山	八 山	天 馬	蟻 鏡	本 山	飛 山	猴 晒 日
全	全	全	全	全	全	高	全	全	全	全	全	全	全
一 一 三 〇 〇 呎	一 〇 九 七 〇 呎	一 〇 五 〇 〇 呎	一 〇 四 五 〇 呎	一 〇 四 〇 〇 呎	一 〇 二 八 〇 呎	八 九 二 〇 呎	八 二 〇 〇 呎	三 三 六 〇 呎	三 三 二 〇 呎	二 七 〇 〇 呎	二 〇 〇 〇 呎	二 〇 〇 〇 呎	二 〇 〇 〇 呎

火山

接 雲	山 猪 路	樟 仔 壁	尾 峯	老 雞 山	烏 鞍 山	香 洋 山	嵌 頂 山	香 仔 湖 山	魁 斗 山	大 鷄 籠 山
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一 八 〇 〇 呎	一 一 〇 〇 呎	一 〇 三 〇 呎	一 〇 三 〇 呎	八 一 〇 〇 呎	八 〇 〇 〇 呎	七 六 〇 〇 呎	七 〇 〇 〇 呎	五 二 〇 〇 呎	五 〇 六 〇 呎	四 七 一 五 呎

(二七) 臺灣ノ山脈ハ九州阿蘇山ト聯通シテ一大火山脈ヲナスヲ以テ、全島硫黄及  
温泉ニ富ム。火山ノ有名ナルヲ嘉義縣ノ東南ナル一火山、及北部地方ナル紗帽山(三  
六五〇尺)トス。

河流

(二八) 臺灣モ本州ノ如ク一道ノ山脈其中央部ヲ横斷シ、河流皆茲ニ源セルヲ以テ大河ノ記スヘキモノナシ、僅ニ大姑陷河アルノミ、其ノ本流ヲ滬尾河或ハ淡水河ト云ヒ、延長凡ソ三十里、淡水港ニ注ク、流勢急激ニシテ舟楫ノ便ヲ缺クモ、河口ヨリ臺北府ニ至ル間僅ニ小船ヲ通スルヲ得可シ、其ノ他鳳山縣ニ於ケル下淡水河、嘉義縣ニ於ケル曾水、急水、八漿、牛稠、虎尾、彰化縣ニ於ケル寶斗、大肚、大甲、及新竹縣ノ吞霄、後璫、中港、香山、宜蘭縣ニ於ケル三貂、草嶺脚、烏石、獨水、馬賽、大東ノ諸流トス、多クハ溪流ニシテ大ナルモ尙十里ヲ出テス、小ナルハ僅カニ小舟ヲ通スルニ過キザルモ、夏秋ノ候雨水汎濫スルヲ以テ、能ク沿岸ノ地ヲシテ膏腴ナラシムル利アリ。

(二九) 臺灣ノ湖沼ハ皆小ニシテ錄スルニ足ラス、水社湖其ノ主ナルモノニシテ、本島ノ中央部ニ在リ。

第二節 人事誌

習俗  
生業

(二〇) 臺灣ノ帝國版圖ニ歸セシヨリ、日月猶淺キヲ以テ從來ノ慣習未去ラズ、其住民ノ如キモ、知識甚幼稚ニシテ德義ヲ知ルモノ尠ク、殊ニ生蕃族ノ如キニ至リテハ

統御頗ル難シ。

臺灣ハ鑛脈ニ富ミ、土地亦豐腴ナルヲ以テ人民ノ生業ニ苦ムモノナク、唯天然ニ安シテ一生ヲ送ルモノ多シ、故ニ農業ニ從事スル外、別ニ業ヲ營ムコトナク、採礦及漁業ニ至リテハ甚微々タリ。

(一一) 臺灣中最大ノ都會ヲ臺南府トス、元臺灣ノ首府タリシ所ニシテ、地ハ西南ニ僻シ、西方僅カニ海洋ニ面シ、地勢狹隘ナルモ周圍繞ラスニ石壁ヲ以テシ、八個ノ樓門ヲ設ケ、市街略ホ清潔、人口十三万五千、交通ノ便アリ。

(一二) 臺南府ノ西方二里ノ海岸ニ安平縣アリ、人口千五百餘、鳳山縣ハ臺南府ノ南十四里ニ在リ、人口五千、多クハ支那廣東ノ移民ナリ。

(一三) 臺南府ノ東北三十餘里嘉義縣アリ、人口凡一万五千、彰化縣ハ臺南府ヲ距ル三十里、人口二万、地豐饒ニシテ水利ニ富ム、新竹縣ハ臺灣ノ北部ニアリテ、交通運輸ノ便ヲ有シ、基隆、淡水地方ニ送致スル物産ハ、常ニ此地ヲ經由セリ、人口四千五百。

(一四) 臺灣總督府ノ所在地ナル臺北府ハ、四面山ヲ以テ圍繞セラレ、恰平安城ニ似タリ、家屋ノ構造多クハ煉瓦石ヲ用キ、支那及西洋風ノ建築ニ富メリ、四面城壁ヲ築

臺北府  
淡水縣

嘉義縣  
彰化縣  
新竹縣

安平縣  
鳳山縣

臺南府

基隆縣

臺灣府  
臺東州  
臺南府  
雲林縣

キ、東西南北各、複門ヲ設ク、延長約一里餘、臺灣鐵道ノ起點ニシテ新竹縣ニ及ブ、淡水河ノ支流市ノ傍ヲ流ル、人家稠密商業殷盛、戶數凡二万有餘、人口十五萬アリ、此地大ニ茶ヲ產出ス、淡水縣ハ淡水河口ニ在リ、臺北府ト並立シテ商業ノ繁榮ヲ占ム、海口常ニ數十艘ノ小船ヲ泊セシム、巨商大賈軒ヲ列ス、人口凡七千餘。

(二五) 基隆港ノ南端ニ基隆廳アリ、人口八百、宜蘭縣ハ臺北府ニ在リ、支那移民ノ開設セシ所ニシテ、人口六千ヲ有ス。

(二六) 臺灣本島ノ中央ニ當リ臺灣府アリ、現時全島ノ首府ト稱スルモ、地理不便ニシテ名實相伴ハス、其ノ他臺東州、舖里廳、雲林等ノ都會アレドモ、本是レ蕃族ノ一小都タルニ過ギス。

中學常 日本地理終

明治廿八年十一月廿五日印刷  
 明治廿八年十二月廿八日發行

(中學日本地理與付)  
 定價金壹圓



著作者 木村繁四郎  
 著作者 大道寺直  
 發行者 宮崎道正  
 印刷者 仁科衛  
 印刷所 厚信舎

東京市神田區裏神保町一番地

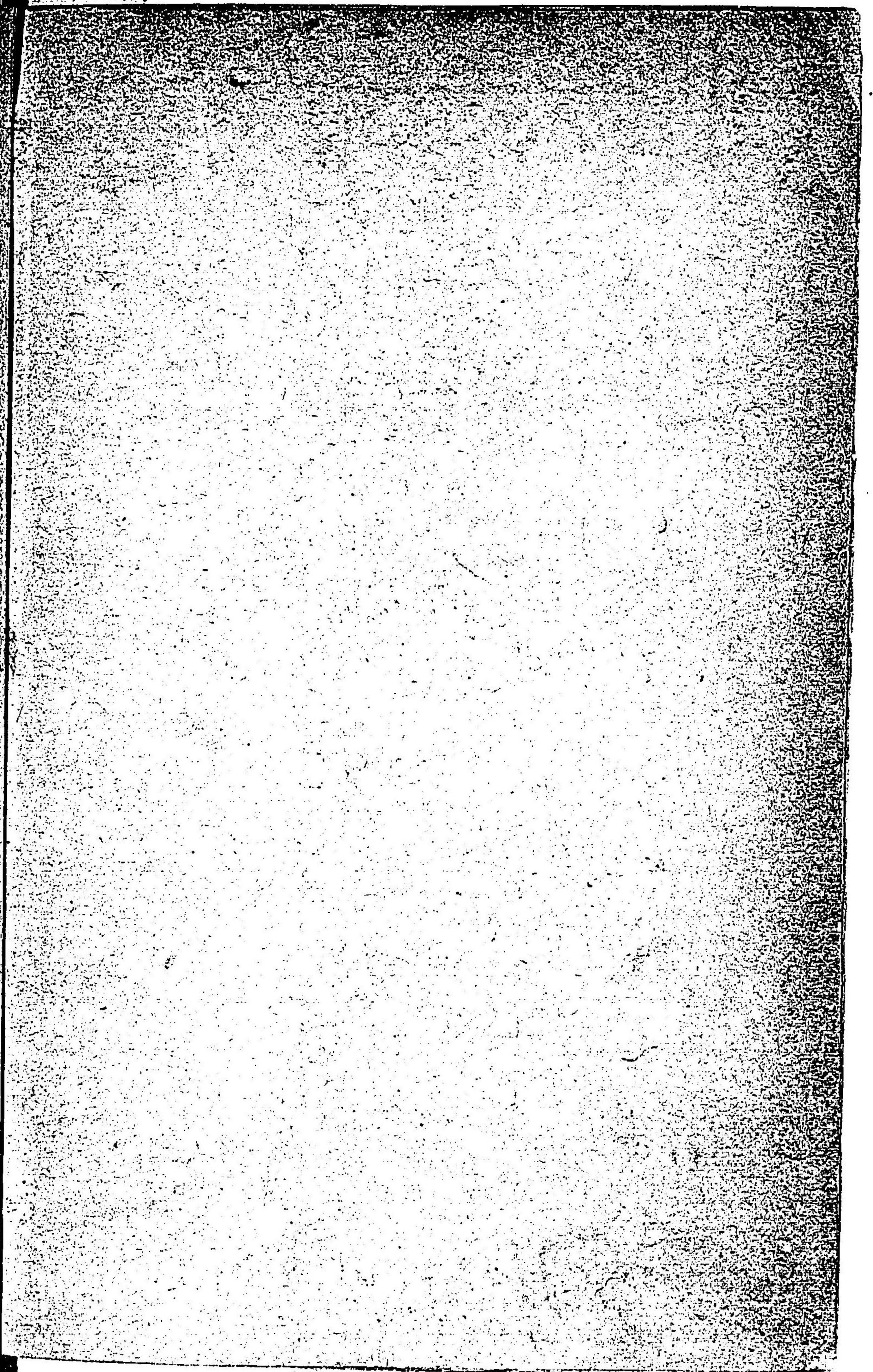
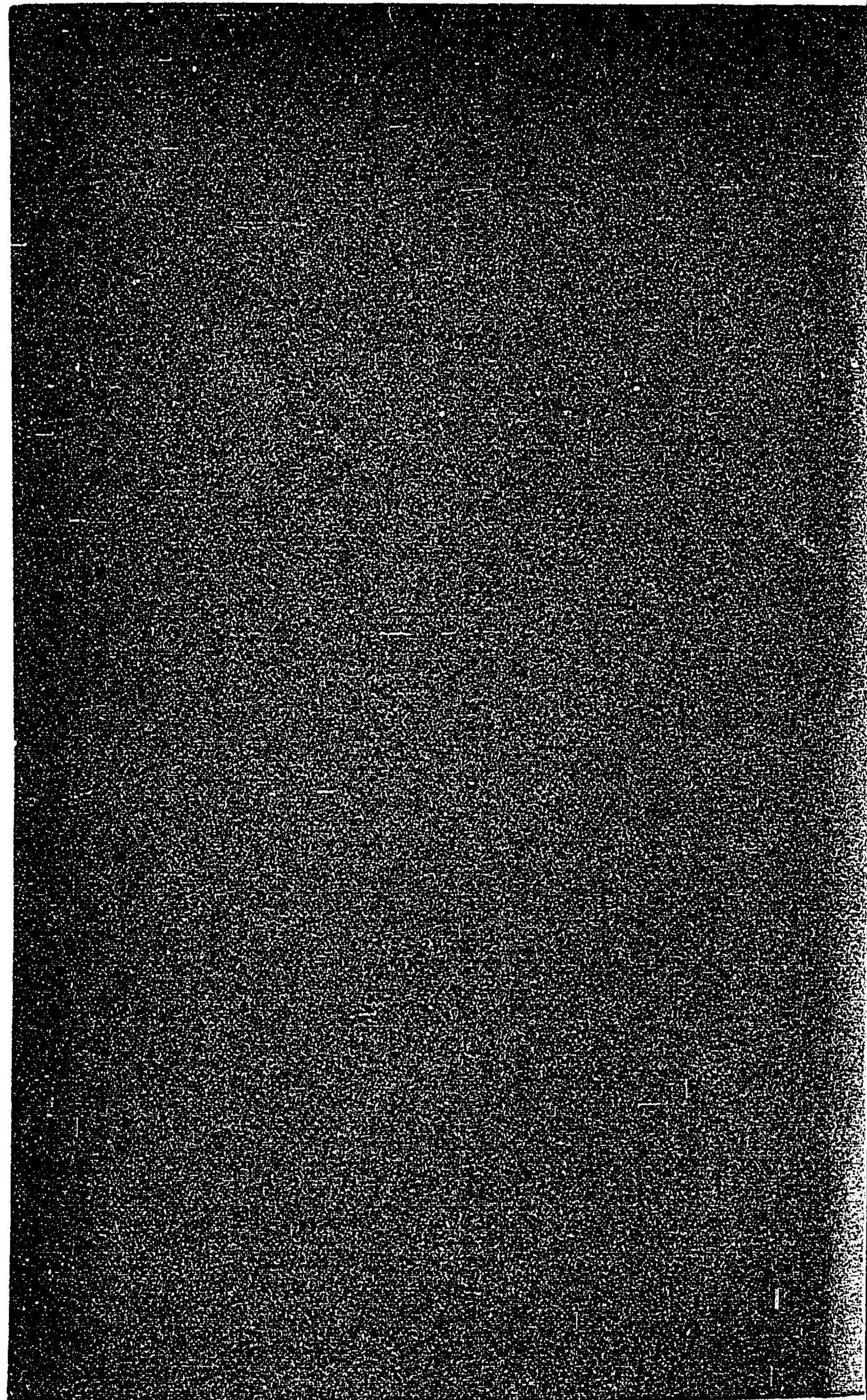
發兌書肆

敬業社

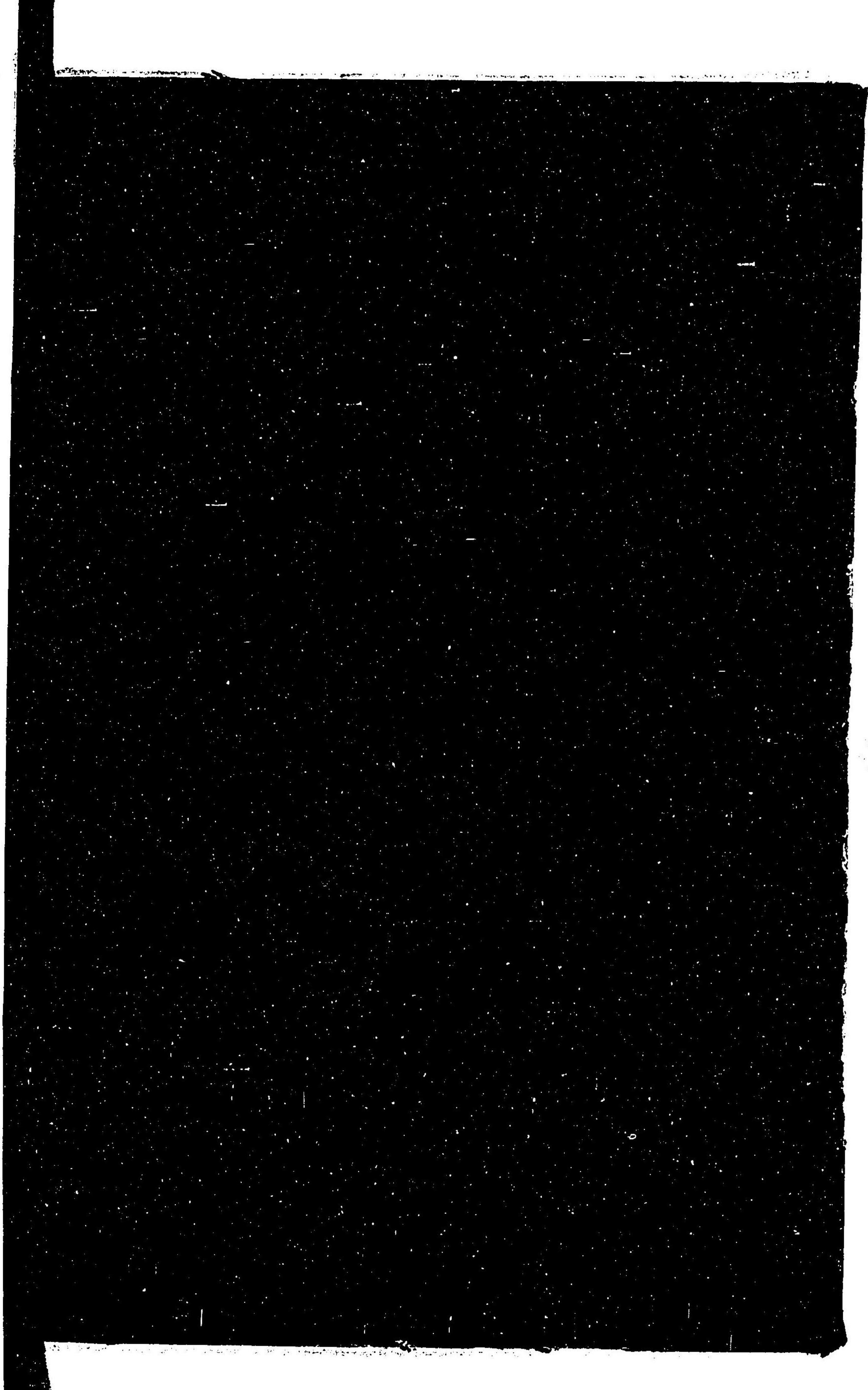


各地賣捌書肆

大坂市備後町四丁目	東京市日本橋區通三丁目	全	通一丁目	全	新大坂町	全	神田區表神保町	全	京橋區竹川町	全	南傳馬町	全	大坂市備後町四丁目	全	南區心齋橋	全	北久太郎町	全	北久寶寺町	全	名古屋市本町三丁目	全	玉屋町	伊勢津市大門町	和歌山市本町	高知市種崎町	福岡市博多中島町	全	筑後久留米市米屋町	長崎市酒屋町	佐賀市白山町																	
敬業社出張所	丸善商社	大倉書店	小林喜右衛門	中西屋邦太	共益商社	吉川半七	梅原龜七	石井鈎三郎	吉岡平助	松村九兵衛	柳原喜兵衛	三木佐助	川瀬代助	片野東四郎	河島九右衛門	平井文助	澤本駒吉	森岡書店	積善館支店	菊竹書店	安中半三郎	河內壯助	熊本市新町	鹿兒島市仲町	山口市市中町	滋賀縣大津	甲府市	信州松本	全	長野大門町	全	上田	全	越中富山市	全	越後水原	全	新潟市	千葉縣千葉本町	橫濱市辨天町	仙臺市大町	全	岩代郡山	山形市七日町	全	羽後秋田市大町	盛岡市	北海道札幌南一條
長崎次郎	吉田幸兵衛	育英堂	淡海堂	柳正堂	水琴堂	高美書堂	西澤喜太郎	同支店	大橋甚吾	中田書店	西村六平	櫻井產作	多田屋支店	丸屋書店	文屋學館	高藤書店	富屋久之丞	五十嵐大右衛門	牧野德太郎	鈴木鐵治	上村才二	小鹽武吉	進振堂																									



48  
265



45  
265

022968-000-4

45-265

日本地理 (尋常中学)

木村 繁四郎/著

M28

ADB-0905



